

みやぎ生活協同組合  
社会・事業・環境  
2009

活動についての報告書



# 目次

はじめに	*ごあいさつ（理事長）	1
	*理念—みやぎ生協のめざすもの	2
第1章	食の安全・安心の取り組み	
	*ピックアップハイライト	4
	*商品検査室の2008年度の取り組み	8
	*食の安全行政を求める取り組み	9
	*顔とくらしの見える産直	10
	*産直旬菜市場の拡大	11
	*地産地消・生産データ追跡システム	12
	*メンバー・職員と産直生産者との交流	13
第2章	地域社会に貢献するメンバー活動	
	*ピックアップハイライト	16
	*産地体験と学習活動	18
	*食生活・食育活動	19
	*商品活動	20
	*平和とくらしの取り組み	21
	*文化活動の取り組み	22
	*生協の特性を活かした地域貢献	23
	*生協と行政との連携	24
	*災害時における県内各自治体との連携	25
	*生協の国際協力活動	26
第3章	地域の助け合いと福祉活動	
	*ピックアップハイライト	28
	*メンバーどうしの助け合いの活動	30
	*地域で福祉の輪を広げる活動	32
	*生協の福祉事業	34
第4章	事業活動・職員の活動	
	*ピックアップハイライト	36
	*店舗事業について	38
	*共同購入事業について	40
	*サービス・共済事業について	41
	*職員の制度・教育	42
	*お取引先様とのパートナーシップ	43
	*2008年度の事業の決算概要	44
	*組織概要データ	45
	*みやぎ生協の機関運営とコンプライアンス経営の仕組み	46
*プレスリリース	47	
*1年間のマスコミ報道から	48	
第5章	環境活動	
	*ピックアップハイライト	50
	*環境マネジメントシステム	52
	*メンバー活動における環境保全の取り組み	54
	*行政やMELONとの連携	56
	*環境配慮商品の拡大普及	57
	*リサイクルセンターの取り組み	58
	*温暖化防止自主行動計画	59
	*環境管理データ	60
	*環境保全に伴う会計や法規制について	61
*環境監査・審査報告	62	

## ごあいさつ



理事長 芳賀 唯史

2008年度、みやぎ生協は、食品の安全確保と食料自給率向上を最重点にして取り組みをすすめてきました。「顔とくらしの見える産直」の強化や国内産原料を使用した商品開発などの課題では、年度当初に掲げた計画をほぼ達成することができました。

しかし、事業・経営は、世界的な不況、メンバーのくらしの厳しさからくる節約志向、さらには競争の激化の影響を受け、非常に厳しい状況です。

厳しい中でも、みやぎ生協の供給高は前年比99.9%で1,030億円、県内食品小売高の13%のシェア率となっています。また、メンバー（組合員）数は、1万6千人増加して、60万3千人、宮城県の世帯数比での加入率は67%となりました。全国の生協の中で最高のシェア率と加入率を維持しています。これらの数値は、宮城県の中で果たすみやぎ生協の社会的責任が大きく、また、幅広く深いものになっていることを意味すると自覚しなければなりません。

CSR経営の構成要素として、一般的に「経済・環境・社会」の3つの側面があると言われています。2008年度のみやぎ生協の各側面での主な取り組みは下記の通りです。

経済面においては食品に関する冒頭の取り組みの他、県内の農・水・畜産物の取扱いを重視し、地域経済の発展に貢献してきました。環境面では、レジ袋有料化の実施店舗拡大、事業所から排出されるCO<sub>2</sub>の排出量の削減を進めつつ、植林活動で、県内5箇所目の「こ〜ぶの森」をつくりました。更に、事業所からの廃棄物量の削減などに取り組みました。

社会面では、岩手・宮城内陸地震の際は、行政と連携して応急物資協定を履行、高騰した灯油の価格抑制国会要請行動、ユニセフを通じては、マンマーサイクロン・中国四川大地震に対する緊急募金の実施、福祉ネットワークみんなの運動など、多面的な取り組みを行ってきました。

こうした2008年度の活動を整理し、「社会・事業・環境活動についての報告書(CSRレポート)」を作成いたしました。ぜひご覧いただき、みやぎ生協の活動を今後もご支援いただければ幸いです。

2009年度は、組合員のくらしの一層の困窮化、将来への不安感・危機感の高まり、地域経済の疲弊、小売業各社の生き残りをかけた攻勢が、生協の事業・経営を直撃する様相です。現実の厳しさに立ちすくんでしまえば、生協の存続すら危うくなります。状況の厳しさをしっかりと認識し、その認識を、困難な課題に挑戦していく意欲に変え、厳しい現実に立ち向かっていきたいと考えています。

最後に、みやぎ生協への皆様のさらなるご支援ご指導をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

# 理念

〔みやぎ生協のめざすもの〕

わたしたちは、協同の力で、  
人間らしい暮らしを創造し、  
平和で持続可能な社会を実現します。

- 「協同」とは、人間と人間が、互いにその人間性を尊重しあい、心をかよわせ、助け合って活動することを意味します。わたしたちは、「協同」の力こそ、目的を達成するための原動力であることを確信します。
- 「人間らしい暮らし」とは、豊かなくらしを支えるモノだけでなく、心の豊かさや健やかさ・ゆとりがあるくらしです。わたしたちは、人間らしいくらしや社会を、与えられるものではなく、自ら創り出す目標として掲げます。
- 「平和」は、生協活動の前提でもあり、めざすものです。また、「持続可能な社会」とは、地域環境を永久的に破壊しないようにすることです。地域環境の保全を考え、限りある資源を、自然との調和を大切にしながら有効に活用していきます。

〔スローガン〕

『一人は万人のために、万人は一人のために』  
『平和とよりよき生活のために』  
『みんなでつくる豊かな地域』

- 『一人は万人のために、万人は一人のために』は、世界の協同組合のスローガンです。共同体としての生協のあるべき姿、そして、人と人とのふれあいの温かさを表しています。
- 「平和」は、生協活動の前提であり、めざすものです。「よりよき生活」は、人間らしい豊かな生活へ近づく努力をすることであり、自然や環境が保全される社会の実現にも貢献していきます。
- 協同の力をあわせ、くらしを豊かにする取り組みを日常的なくらしの範囲＝地域の中ですすめていきます。

〔キーワード〕

『環境保全、自然との調和』  
『健康・安全・安心そしてより安く』

- 産業優先、エネルギー浪費の進行のなかで、自然破壊がすすみ、人類の生存そのものをおびやかす状況が高まっています。環境保全と自然との調和のあるくらしが大切です。
- 高齢者の比重が高くなり、食生活のバランスや、運動など「健康」生活に関する興味や関心が高まっています。安全・安心はもとより、同一品質ならより安く扱うことをめざします。

## 食の安全・安心の取り組み

*ピックアップハイライト	4
*商品検査室の 2008 年度の取り組み	8
*食の安全行政を求める取り組み	9
*顔とくらしの見える産直	10
*産直旬菜市場の拡大	11
*地産地消・生産データ追跡システム	12
*メンバー・職員と産直生産者との交流	13

# 食品の安全を確保するためにこのように取

昨年3月にみやぎ生協は、食品の安全をより確かなものとするためのお約束「食品の安全をもう一度原点から」を公表しました。そのお約束に基づいて、食品の安全を確保するための取り組みを着実にすすめました。

（商品の検査・点検の水準を  
引き上げました）

（物流、店舗売場、共同購入配達の各現場段階で、食品の安全点検作業手順を明確にして実施しました）

2008年度は、海外製造加工食品の残留農薬検査をみやぎ生協の商品検査室の管理下で実施しました。

新規取扱商品と継続取扱商品を店舗 244 品目、共同購入 159 品目、抜き打ちで既存一般メーカー商品 133 品目とサンネット商品 6 品目の検査を実施しました。結果は、全て残留農薬の法基準値内でした。

今年度は、みやぎ COOP およびサンネット COOP 商品のうち、特定した原材料の使用または不使用を商品に表示しているものについて、その原材料の確認が検査で検証可能な 54 品目 61 項目についてすべて検査をしました。すべて表示通りの原材料を使用していることを確認しました。

検査結果については、ホームページやメンバー向け機関誌 Able でお知らせしました。

### ◆店舗

店舗では、商品の入荷および品出しの際の商品点検を強化しました。商品表示や賞味期限・消費期限の確認を生鮮部門中心に実施しました。また、異物混入や商品変形がないかについても確認しました。



売場での点検の様子

### ◆共同購入

1. 生鮮セットセンターでは、商品の入荷の時にべたつきやにおい、破れ、汚れ、濡れなどが全 11 項目にわたってサンプル品を点検し、さらにセット前にも各ライン 5 項目の点検を行ないました。
2. 各支部・各センターへの商品入荷および出荷時は、納入業者名、納入業者名、入退室時間の記録を徹底しています。作業中も、納入業者に専用の帽子を着用してもらい、不審な侵入者をすぐに発見できるようにしました。



生鮮セットセンターでの点検の様子

1 月 商品検査室「商品検査」結果報告 (08年12月21日～09年1月20日)		
検査内容	検体数	検査結果
生鮮野菜の残留農薬検査 (15日農薬を検査)	原産野菜中心に28検体 (今年度累計検体数 302検体)	全て残留農薬の法基準値内でした。
微生物検査	総検体数1116検体 (9434検体) *( )は累計検体数	今月度は、共同購入の年末商品一斉検査と「おせち」の配達時検査を重点的に実施しました。検査結果から取り消し中止等の措置を行った商品はありませんが、検査結果については、メーカーの衛生管理向上のために活用しました。
	共同購入配達商品 201 (811)	
	店舗調理加工商品 231 (2883)	
	店舗一般メーカー商品 (フナント含む) 556 (2339)	
	COOP商品、 「フナント」東北生産品 41 (678)	
	取扱事前検査など 87 (2723)	
海外製造加工食品の 残留農薬検査 (外部検査機関で実施)	◆取扱事前検品 1検体 店舗商品 6検体 共同購入商品	全て残留農薬の法基準値内であることを確認しました。海外製造加工食品の残留農薬検査の累計は、390品目となりました。
海外製造加工食品の 残留農薬検査結果確認 (年1回メーカーから検査結果を取り寄せて確認)	◆店舗で現在取り扱っている商品 3検体	

※検査結果はホームページでも公開しています。http://www2.miyagi.coop/enzen/

Able 掲載 商品検査室商品検査データ



### （ 食品の安全を確保するしくみを強化・維持しました ）

1. ISO22000 の国際規格に基づく食品の安全マネジメントシステムを構築するため、食品安全チームを立ち上げ、専門家から指導を受けました。
2. マスコミや行政から食品に関連する事故や事件について発表があった場合、直接みやぎ生協で起きた事故ではなくても、対応チームを組織して該当商品の取り扱いがあるかどうかを直ちに調査し、取り扱いが確認されたときは、店舗や共同購入での対応についてみやぎ生協ホームページ等でお知らせしました。



みやぎ生協のホームページ

3. 関係行政機関への報告体制を整備し、「商品の安全に関する重大商品事故発生時対応マニュアル」に決めました。健康被害の拡大や犯罪の可能性が想定されるような案件については、保健所や警察など関係行政機関に報告、相談しながら対応しました。
4. 餃子事件後に、宮城県の「みやぎ食の安全安心取組み宣言」への登録を辞退していましたが、その後も食の安全推進活動を継続推進した結果、昨年12月に宮城県から「取組み宣言」の再登録が承認されました。



### （ 食料自給率向上のため国産品の取り扱いを増やしました ）

1. 産直品の生産状況をメンバーに伝えるための生産者との店頭活動やメンバーから生産者への応援メッセージ(8,000通)など「顔とくらしの見える産直」の活動を更に強化し、産直品の供給高も増加しました。



地産地消の日の売場

2. 国産原料を主原料に国内で生産する加工食品は、店舗で供給構成比31%、共同購入で33%と2008年度の目標25%を超え、将来的な到達目標である50%に近づいています。地場素材の商品開発を積極的に推進し、「女川産さつま揚げ」「宮城県産真いかから揚げ」など店舗と共同購入を合わせて133品目を発売し、メンバーや生産者から好評を得ています。また、こうした商品開発は社会的にも注目され、マスコミにも取り上げられました。県産、国産原料等を主原料とした商品を普及させるための商品開発を、今後も積極的にすすめていきます。



女川産さつま揚げ



宮城県産真いかから揚げ

3. 宮城県内で漁獲された水産物を提供する「おさかな直送便」を週1回8店舗で実施し、魚の



「おさかな直送便」の売場の様子

- 少ない時期を除き、実施日の供給高は水産部門の15%を占めるまでになりました。また、畜産飼料の地域内自給を高めるため「JAみどりの」地域で生産した飼料米と「JAみやぎ仙南」地域の食品工場の残渣を使ったエコフィードをそれぞれの産直豚の飼料として配合しています。これらの年間出荷頭数は5200頭で、全体の約29%を占めています。
4. 東北地方の生協で構成されるコープ東北サンネット事業連合で開発・管理しているコープ商品政策の見直しをすすめ、全体で166品目ある商品数を148品目に絞り込みました。海外生産のものを全て廃止し、地元産や国内産など特徴のあるコープ商品を重点に開発・管理する方針にしました。

検証委員会の提言を踏まえ、生協への信頼を再構築するための取り組み「コープ商品の品質保証体系の再構築計画」をまとめ、それに基づいた食品の安全の取り組みを進めています。この計画の進捗を点検・検証するために「コープ商品の品質保証体系再構築計画の進捗を検証する委員会」が昨年9月に設置され、みやぎ生協からも役員1名が参加しています。11月には、日本生協連と会員生協による商品事故の発生を想定した集合訓練・演習を行いました。

3. 日生協C O O P商品について、日本生協連で把握している全国の商品事故情報を各生協で見ることができる仕組みが昨年12月から稼働しました。日生協C O O P商品の事故内容と対応状況についての情報を全国の生協で共有しました。
4. 万が一、商品に関連した大きな問題が発生した場合に備え、昼夜・休日を問わず連絡できる緊急連絡先の登録をお取引先様をお願いしてご協力いただきました。また、海外工場生産品の残留農薬検査の検査成績書提出などにもご協力いただきました。

## （他生協やお取引先様との協力がすすみました）

1. 東北の商品事故情報を一元管理する仕組みを作りました。コープ東北サンネット事業連合加盟の東北地方の6県7生協（コープあおもり、コープあきた、いわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしま、秋田県北生協）が共通で利用できる「商品事故の情報管理システム」を開発しました。昨年6月からすべての加盟生協で利用しています。商品に関連した大きな問題につながる兆候が少しでも疑われるお申し出は、共通のマニュアルに基づいて対応が判断され、解決するまでみやぎ生協の商品事故対策室が監視をしました。
2. 日本生協連では、一連の商品事故の反省と第三者

## （食品の原材料や産地などがわかる表示や情報を充実しました）

製造国、原料原産地などの情報公開をすすめ、店舗では、コープ商品や冷凍加工食品などに、製造国などのPOP表示や原料原産地の表示を始めました。

共同購入では昨年5月から加工食品全てに製造国を表示しています。

また、インターネットや店頭端末で、主要な原料の原産国や製造国名が分かるようになり、6500品目以上の商品が検索できるようになりました。



店頭端末

# 商品検査室の2008年度の取り組み

## ご利用いただく商品を私たち自身の目で確かめます

みやぎ生協商品検査室は1997年12月に開設しました。メンバーに安心して利用していただくために、食中毒の原因となる各種微生物の検査や産直野菜の残留農薬の検査等を行ない、結果を衛生改善や栽培指導に役立てています。また、今年度から、海外製造加工食品の残留農薬検査や、COOP商品の指定原材料の確認検査を外部検査機関で実施しました。



商品検査室

### 08年度の商品検査室の主な活動内容

#### 1. 微生物検査は、11,216検体行ないました。

項目	検体数
共同購入配達商品	1,070
店舗調理加工商品	3,567
店舗一般メーカー商品（テナント含む）	2,802
COOP商品・コープフーズ東北生産品	810
取扱事前検査など	2,967
合計	11,216

自主基準を超えた商品が5品（和菓子3品・おから1品・笹蒲鉾1品）あり、取り扱いを一時停止し、当該部署と共同で改善の取り組みを行ないました。

#### 2. 残留農薬検査は、354検体行ないました。

項目	検体数
産直品	313
提携品	9
一般品	12
モニタリング	20
合計	354

産直野菜で残留基準値を超えた農薬の検出が1品目あり、行政への報告と回収を行ないました。その他の検査結果は、当該部署に報告し栽培方法などの指導に役立てました。

#### 3. 海外製造加工食品の残留農薬検査

- (1) 店舗と共同購入で供給している海外製造加工食品について、製品での残留農薬検査結果の点検を行ないました。店舗244品目、共同購入159品目を点検し、結果については問題ありませんでした。
- (2) 店舗ですでに供給している海外製造加工食品（一般メーカー商品133品目とサンネットCOOP商品全6品目の計139品目）を、抜き打ちで残留農薬検査を実施しました。検査結果については問題ありませんでした。

#### 4. 指定原材料の確認検査

COOP商品の指定原材料の中で、検査で検証可能な54品目の指定原材料の確認検査を実施しました。その検査結果から、全54品目の指定原材料が、適切に使用されていることを確認いたしました。



残留農薬検査



微生物検査

# 食の安全行政を求める取り組み

みやぎ生協は、宮城県内の消費者団体によるネットワーク「食品の安全行政をすすめる懇談会」と連携し、安心して食生活を送れる環境を求めて、国・宮城県・仙台市など行政に対して様々な働きかけを行なっています。

## ●「食品の安全行政をすすめる懇談会」構成団体●

宮城県生活協同組合連合会  
 特定非営利活動法人仙台・みやぎ消費者支援ネット  
 宮城県地域婦人団体連絡協議会  
 宮城県消費者団体連絡協議会  
 主婦連合会仙台支部  
 みやぎ生活協同組合  
 生活協同組合あいコープみやぎ  
 (財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

## ■行政担当者を招いての学習活動

宮城県では、2008年4月1日から食品衛生法施行条例の一部を改正し、食品の自主回収制度を新たに規定しています。この宮城県の食品衛生法施行条例の改正ポイントは何かを学習し、今後の働きかけにつなげるために、宮城県の担当者を招いての学習を行なったほか、他自治体がどうなっているのかを学習するために、講師を招いての学習も行ないました。



宮城県担当者による食品衛生法施行条例改正の学習会



他自治体の自主回収制度についての学習会

## ■宮城県・仙台市の「平成21年度食品衛生監視指導計画案」へ意見を提出

食品の安全性を確保するため、食品衛生法に基づいて例年各都道府県知事などが次年度の食品衛生に関する監視指導計画を定めています。この計画策定にあたっては、その趣旨・内容その他の必要な事項を公表し、広く住民の意見を求めなければならないとされており、宮城県・仙台市で毎年意見の募集が行なわれているのにあわせて、県・市それぞれに意見の提出を行ないました。

※提出した意見は、みやぎ生協ホームページに掲載しています。

## ■輸入食品の監視指導業務について学習

輸入食品の安全性が疑問視され、その水際での監視体制についての関心が高まる中、輸入食品の監視指導業務はどのように行なわれているのかを知るために、「厚生労働省仙台検疫所」への移動学習会を開催するなど、国の監視指導業務について概要を学習しました。



仙台検疫所での移動学習会

# 顔とくらしの見える産直

## みやぎ生協の産直

### ■みやぎ生協の産直の定義

みやぎ生協では、産直を「生産者と消費者が交流し、学習し、検討を重ねる中で消費者が要望する生産物を生産し、生産者が要望する価格を保障する方法であり、この方法によって、現在の食生活が抱えている問題を克服していこうとするもの」と定義しています。

消費者と生産者が、対等・平等の立場で提携することから、産消提携活動、あるいは産消直結活動と呼んでいます。（一般の「産地直送」＝中間流通とは区別されています）。

「安全でおいしい食品を食べたい」。みやぎ生協の産直は、そんなメンバーの声から生まれました。みやぎ生協が取り組んでいるのは“顔とくらしの見える産直”です。1970年に産直がスタートしてから39年めになります。

### ■産直運動を進める基本的な立場

1. 健全な日本型食生活の確立と食糧の安全性を高めま
2. 食糧自給率の向上をめざし、日本と宮城県の農・水・畜産業とその加工業、及び生産者の暮らしを守る国民合意の運動を進めます。
3. 産消提携活動に積極的に取り組みながら、地域経済復興と文化の発展、自然環境の保全に寄与します。

以上の立場を「産消提携に関する基本協定書」として表し、みやぎ生協と協定を結んだ各団体で「宮城県産消提携推進協議会」を組織しています。

協議会は、産直品の生産、流通、販売への積極的な関わりを通じて、生産者と消費者の暮らしを豊かにするための活動を行っています。1985年に初めてとり交わされた「協定書」は、現在37の団体と締結しています。

### みやぎ生協の産直生産物の3つの基準

- (1) 産地と生産者が明確であること  
（「誰」が「どこ」で作ったかがわかること）
- (2) 生産方法と手段が明確であること  
（「どのように」作ったかがわかること）
- (3) メンバーと生産者の交流がされていること  
（共通の願いの表現）

\*産直品を原料として使用した商品を産直加工品といいます。



「誰」が「どこ」で「何」を「どのように」にして作るのかお互いに話し合いで決めます。

### 「産直」の事業と運動を一緒に進めています。

産直の生産者が増えれば、安心な食べ物が増えます。また、消費者が増えれば、生産物の消費が増えて、運動と事業の両者が成り立ちます。

### 環境への配慮

産地が宮城県と近県が中心なので、輸送距離に伴う二酸化炭素の排出量が少ないこと、青果や米については環境への負荷が高い農薬については使用せず、農薬の総使用量を減らしていること、産直畜産物から出る排出物を堆肥化していること、魚の養殖では、水質を汚染しにくい飼料を使用するなど、産直品は環境に配慮した商品でもあります。

### 産直品”供給高

(単位: 万円)

	08年度産直品供給高	産直品の供給高前年比	産直品の供給構成比
果物	24,033	98.0%	5.4%
野菜	89,925	104.3%	10.5%
米	94,178	106.4%	54.7%
水産	49,980	91.5%	4.9%
畜産	198,879	100.3%	3.0%
惣菜	8,954	148.3%	1.6%
ディリー	86,196	102.2%	4.8%
加工食品	429	-	0.0%
合計	552,143	101.8%	7.4%

# 産直旬菜市場の拡大

(しゅんさいいちば)

## 産直旬菜市場とは

店舗の農産売り場の一角にある、産直野菜の直売所的な売り場です。鮮度を重視した旬の野菜を中心に品揃えしており、生産者の自信作が揃っています。

### 1. みやぎ生協の産直野菜栽培基準に基づいた産直野菜です。

作物ごとに人体や環境への負荷の少ない使用農薬を決め、さらに使用量は通常の栽培の半分をめざしています。

### 2. 生産者が規格と価格を決めて出荷しています。

産直旬菜市場は生産者・生協メンバー・店舗職員の3者が定期的に会合をもって、生産者・消費者お互いの要望に応えようとする運営がされています。メンバーさんによるお褒め活動も、多くの店舗で行なわれました。



塩釜栄町店 旬菜市場

### 3. 食味に問題のない規格の不揃いな商品など、お買い得な商品も扱います。

生産者が市場に出荷するには、市場規格に合わせることで、一定の量が必要になります。産直旬菜市場では、たとえば、曲がったり長さ揃わないきゅうりについても食味に問題がありませんので、生産者は一定の価格で販売することができます。

#### ■産直旬菜市場の開設店舗と出荷元

開設年	店舗	出荷産地
2001年	古川南店	古川産直グループ・JAみどりの(田尻)
	多賀城店	JAみやぎ仙南(角田)・JAみどりの(小牛田)
2002年	白石店	JAみやぎ仙南(白石)
	明石台店	JAみどりの
	富沢店	JAみやぎ仙南(丸森)・柳生産直会
2003年	巨理店	伊達なわたりっこ(巨理)
	柳生店	柳生産直会・JAみやぎ仙南(丸森)
	見ヶ丘店	JAみやぎ仙南(蔵王)・JAみどりの
	岩沼店	岩沼洋菜生産組合・JAみやぎ仙南(村田)
	加賀野店	JAみやぎ登米
	榴岡店	JAみやぎ仙南(白石・村田)
	幸町店	JAみやぎ登米
2004年	高森店	JAみどりの・JAみやぎ仙南(白石)
	新田東店	JAみやぎ仙南(川崎)・JAみやぎ登米
	愛子店	JAみやぎ仙南(蔵王)・JAみどりの
	名取西店	岩沼洋菜生産組合・JAみやぎ仙南(丸森)

開設年	店舗	出荷産地
2004年	南小泉店	JAみやぎ仙南(丸森)・JA加美よつば
	大河原店	JAみやぎ仙南(大河原・白石)
2005年	桜ヶ丘店	JAみやぎ仙南(角田)・JAみどりの
	南光台店	JA加美よつば・柳生産直会
	高砂駅前店	上岡田ひまわり会・JAみどりの(小牛田)
2006年	塩釜杉の入店	JAみやぎ仙南(角田)・JAみどりの(鹿島台)
	岩切店	JAみやぎ仙南(角田)・JAみやぎ登米
2007年	八幡町店	JAみやぎ仙南(白石)
	高砂店	上岡田ひまわり会・JAみどりの(小牛田)
2008年	八木山店	JAみやぎ仙南(角田)・柳生産直会
	西多賀店	JAみやぎ仙南(丸森)・石巻地域旬菜部会
	石巻大橋店	石巻地域旬菜部会
	利府店	JAみどりの(田尻)・石巻地域旬菜部会
2008年	蛇田店	石巻地域旬菜部会
	塩釜栄町店	JAみやぎ仙南(角田)・石巻地域旬菜部会
	新寺店	JAみやぎ仙南(蔵王)・石巻地域旬菜部会

# 地産地消・生産データ追跡システム

## 地産地消の取り組み

みやぎ生協では、以前から地場の商品や宮城の食文化を伝える食材の取り扱いを積極的に行なってきました。その中から選りすぐった商品に、2006年からは「う〜めっちゃ! みやぎ」の愛称を付けてメンバーさんにお奨めをしてきました。



産直たまごの推奨

2008年4月には、宮城県が「食材王国みやぎ地産地消の

日」を提案、みやぎ生協はいち早く賛同を表明し、毎月第一金曜から日曜までの三日間を産直品を中心として地場品の普及に全店で取り組んでいます。



うめ輝らりの推奨

また、地場原料を使った商品の品揃えも増やしており、2008年は大河原商業高校の高校生がプロデュースした「うめ輝らり」や女川産すりみを使用したさつま揚げなどが誕生しました。現

在、店頭では約300品目の商品に「地産地消」の表示を取り付け、毎日お奨めをしています。



地産地消の普及活動



地産地消の日



産直あか鶏の推奨

## 産直野菜栽培使用農薬基準

1. 農薬は、農産物を食べる消費者にも、使用する生産者の健康にもよくない影響を与えます。また、水・大気・土などの環境汚染や自然の生態系の破壊にもつながっています。したがって、産直品ではできるだけ使用総量を減らすことが原則です。そのためには、土づくりを重視し、できるだけ農薬を使わなくても済むような農法を目指します。
2. 産直野菜で使用する農薬については、毎年の「農薬・農法プロジェクト \*注」で翌年分を確認します。これに基づき、生産者は栽培計画の登録を行ないます。
3. 産直に使用してはいけない農薬6つの基準を決め、使用していません。

\*注「農薬・農法プロジェクト」は、みやぎ生協とみやぎ生協の産直野菜を生産している15の生産団体(農協や生産者グループ)で構成しています。

## 生産データ追跡システム

みやぎ生協は、2002年に、全国に先駆けて、産直品をいつ・誰が・どこで・どのように生産したかなどの生産情報をたどることのできる仕組みを構築しました。畜肉品から始まって、その後カキ、ふるさと米、青果物、ぶり、卵が加わっています。

そのほかにも、ホームページや店頭端末から、さまざまな産直商品の商品特徴を見ることができます。

<http://www2.miyagi.coop/sanchoku/>



# メンバー・職員と産直生産者との交流

## 生産直の生産現場を知る取り組み



職員の産地見学

1. メンバー・職員の産地見学の回数は、131回実施し、のべ2,979名が産地を訪問し生産現場を実際に見て、生産現場を実際に見て、生産者から直接お話を伺いました。
2. 畜産飼料の高騰、野菜・果物の肥料の値上げ、原油の高騰の影響で、産直生産者の経営は非常に厳しく、農業現場の窮状を理解していただくために、9月5日～12日開催された理事別メンバー活動リーダー全体会、15会場にメンバー555人が参加し、生産者・農協職員より報告していただきました。
3. 第27回宮城県産直交流集会在、12月3日(水)仙



宮城県産直交流集会

台国際センターにて、メンバー・生産者・提携団体・生協職員の1,304人が参加して開催しました。記念講演は、「豊かな食を守るため、私たちにできること」と題して、民俗研究家の結城登美雄氏に講演していただきました。日本の農業の情勢と農村の現状、日本の食料自給率についての解説と報告をいただきました。また「鳴子の米プロジェクト」の実践例から農業を地域で支えていくことへの提案がありました。

その後特別報告として、今年行なった産直生産者への応援の取り組みについて、メンバーと生産者の代表からそれぞれ報告をいただきました。午後は、10の分科会で各分野の産直活動の取り組みについて確認し、メンバーと生産者が交流しました。

4. 産直ミニ交流会が12エリアで開催され491名が参加しました。生産者から実践報告の後、グループごとに生産者・メンバーが交流しました。「なかなか聞くことのできない生産者の話が聞けてよかったです。生産者のご苦労がひしひしと伝わりました。私たちも応援していますので体につけて頑張ってください」との感想が寄せられました。



産直ミニ交流会

## 産直の良さを伝える取り組み

1. 「はんリーダー＆メンバーのつどい」では、初夏には、「産直ゆきちから小麦」、みやぎ生協の食の安全・安心の新たな取り組み、同じく秋には、産直ふるさと米



産直学習塾

の特徴と食料自給率問題、2回合計でのべ24,000名のメンバーが学習し、産直や食についての学習と話し合いの輪を広げました。



秋のメンバーのつどい

2. 産直品の生産方法・商品の特徴を学習と試食などを通して商品の「良さ」を知っていただく「産直学習塾」を34回806名の参加で実施しました。

「産直品は生産者も明確で、安心して食べられる」「初めて生協の講習会に参加したが、製品にかける情熱を感じた」との感想が寄せられました。

3. 産直委員会の水産・農産・畜産・米農産加工品の拡大学習会として、水産委員会で7月2日96名の参加で産直志



水産委員会拡大学習会

津川湾産養殖銀さけ、産直三陸塩蔵わかめ、産直釜上げしらすの学習をしました。畜産委員会は9月9日に85名が参加して産直鶏肉、産直牛乳について、米加工委員会は10月9日に58名が参加して産直ふるさと米、産直梅干し、産直小粒納豆の学習、農産委員会は3月13日に72名が参加して産直野菜、産直梨の学習をしました。

4. 店舗とメンバーと一緒に収穫を祝う秋まつりは45



産直秋まつり

店舗・3地域で実施されました。餅つきは36箇所で実施され、人気企画になっています。産直野菜の販売や産直品の普及活動のほか、他にタマゴつかみ、スタンプラリー、重量当てクイズ、産直鍋のサービスもありました。

## 産直生産者を応援する取り組み

8月からは、飼料・肥料・燃油高騰で経営が苦しい生産者を励ますため、生協での買い取り条件を変えることに加えて「宮城の生産者を応援しよう」キャンペーンを毎月実施しました。



産直生産者への応援メッセージ

「地産地消の日」の土曜日に、生産者が窮状を直接消費者に訴え、利用をお願いする店頭活動を毎月2店舗で行なってきました。

また、地域のこ〜び委員会でも応援メッセージを寄せていただき、職員の手紙も含め3月までに約11,322通のメッセージを産地にお渡ししてきました。生産者からも、「消費者からの応援がなによりうれしい」と返事をいただき、新聞折り込みチラシや店頭表示でメンバーに報告しました。メンバーから寄せられた応援メッセージは、確実に生産者を元気づけました。

## ■産直牛乳タオル一本運動

産直牛乳生産者のみなさんは、朝と夕方の毎日2回、搾乳前にタオルを使って乳房を清潔にします。

たくさんのタオルが必要になるため、毎年メンバーの皆さんにタオルの寄付をお願いしています。年間を通して集めています。



ご協力をお願いします。

※2008年も、4,068本のタオルを鳴子上原酪農組合・角田丸森産直牛乳生産組合にお届けしました。

※店舗又は共同購入担当者へ「タオル一本運動へ」とお渡しください。

## ■宮城県加美農業高等学校農業科の生徒さんも産直生産者

みやぎ生協では、宮城県の農水産業の後継者を増やし応援する目的で、県内の高校生が実習でつくった商品を積極的に販売しています。



2004年8月より、加美農業高校農業科畜産専攻班の授業で育てられている豚を、みやぎ生協の産直仕様基準に基づき肥育を行って、不定期ですが明石台店で「産直みちのく豚」の商品名で写真シール入りで供給販売をしています。

これらについても、宮城県産消提携推進協議会会員の協力で進められています。

## 第2章

# 地域社会に貢献するメンバー活動

*ピックアップハイライト	16
*産地体験と学習活動	18
*食生活・食育活動	19
*商品活動	20
*平和とくらしの取り組み	21
*文化活動の取り組み	22
*生協の特性を活かした地域貢献	23
*生協と行政との連携	24
*災害時における県内各自治体との連携	25
*生協の国際協力活動	26

# 「異常な原油高騰からくらしを守る生協組合員 100 万人署名」に取り組みました。

2008年度の異常な原油高騰により、食品の相次ぐ値上げや、ガソリンは1ℓ 170円、灯油は1缶2,000円を超える異常な値上がりが続ぎ、収入が増えない中、家計を直撃しました。

また、石油製品の高騰は、燃料や資材の値上げとなつて、中小の事業者や農林漁業にも大きな打撃を与えました。

このような事態を受けて2008年秋、北海道・東北の生協と一緒に、異常な原油価格高騰からくらしを守る施策を求める署名に取り組みました。

### 《請願項目》

一、原油価格高騰の要因となっている投機資金の流入について、日本が率先して各国と連携し、国際石油市場を安定化させてください。

一、物価高・原油高に苦しむ国民に減税対策を講じてください。福祉灯油、離島対策等住民への直接支援を講じている自治体への財政的支援をさらに拡充してください。

一、灯油と石油製品の便乗値上げや在庫水準等の監視を強化し、灯油の供給量と価格の安定対策を講じてください。石油元売の新価格体系に基づく石油関連価格の動きを監視し、価格高騰につながらないように指導してください。

メンバーや職員、産直生産者、お取引先様 1,200社余にもご協力をいただき、署名総数は、みやぎ生協全体で88,356筆、宮城県生協連全体では103,180筆を集めました。さらに全国の生協にも呼びかけ、合計144万筆を超える署名を集めることができました。

11月14日には、署名をもとに国会への請願要請を行い、12月24日、衆議院本会議において全会一致で採択となりました。参議院では時間がなく審議未了となったため、2009年4月9日に、2回目の要請を行いました。

異常な原油高騰からくらしを守る生協組合員100万人署名

## もうがまんできない! この原油高騰では、 とてもやっていけません。

北海道・東北の生協が力を寄せあい、異常な原油高騰からくらしを守る施策を求める生協組合員100万人署名にとりくみます。原油の高騰は生産者にも消費者にも大変な負担になっています。原油の高騰の要因となっている「投機マネー」の流入への対応を求めましょう! 皆さんのご協力をお願いします。

消費者: この冬は灯油も高いし、なんでものんでも値は上がると。家計はもう大変! いったいどうしたらいいの?

生産者: 船の燃料は25年前の3倍! 漁に出れば赤字! 飼料・資材・肥料などコスト高騰中。このままでは農林漁業がつぶれてしまう!

事業者: 工場の燃料コストは1年間で2割に、いろいろな原材料も上がり続けて、もう経営努力も限界! なんをがして!

異常な原油価格高騰からくらしを守る施策を求めます。

氏名	住所

団体名 宮城県生協同組合連合会  
 事務局団体連絡先: 〒981-4953 仙台市青葉区船木1-2-45 フォレスト仙台5階 電話022-276-5162  
 ●個人情報として取り扱いは最大限行ないます。また、請願目的以外には使用いたしません。  
 ●この署名は10月末日12時00分迄の提出予定です。

《署名用紙》



仙台市一番町での街頭署名



国会への要請



街頭署名活動

# 地域で防災をテーマにした学習がすすんでいます。

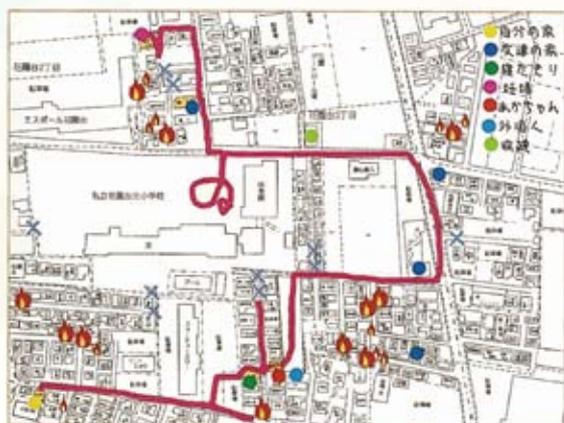
## 1. 学習内容

内閣府が提唱する「災害被害を軽減する国民的運動 減災の取り組み」の一環として、「2008年度コープぼうさい塾」を北海道・東北地連の主催で7月に開催しました。

「コープぼうさい塾」は、居住する地域の避難箇所病院、助けを必要とする人などを地図に落とし込んで、災害が発生した場合に備える図上演習です。

当日は、地域代表理事、エリアリーダー、職員約80名が参加し、防災についての学習と演習を行ないました。

7月の学習会を含め、地域では、こ〜ぶ委員会やはんリーダー&メンバーのつどいなどで、防災をテーマにした学習が、17回(延べ367人参加)行なわれました。



防災マップ



日本生活協同組合連合会発行：ぼうさい塾 MAP 手引書



理事別メンバー活動リーダー全体会(南光台店)

## 2. 参加者の感想など

- (1)委員会単位で自宅近所を確認しあうことにしました。災害時は動物病院も治療先の一つになることなどを知りました。
- (2)早速エリアでマップを作り、委員長会、委員会で学習し、実践したいと思います。家族とも話し合い、やれることを実行しました。
- (3)実際に災害に遭われた方の話や、ビデオ学習、災害対策の取り組み、災害図上演習はとても良い学習でした。学習を自分だけでなく家族や地域の活動で伝えられると良いと思います。
- (4)いつかくる災害に備えて情報を地域の人々と共有することの大切さなど、参考になりました。地域でやってみたい。
- (5)減災について考えさせられました。災害マップは委員会ごとに作ってみたいと思います。
- (6)実際に起きた時に冷静でいられるか心配です。171ダイヤルにかけてみて使い方の確認をしました。
- (7)初めて防災カフェをしましたが、とてもためになりました。みんな真剣に取り組んでいました。
- (8)近々起こるであろう宮城沖地震に備えた心構えを持つために、とても有意義な勉強で身が引き締まる思いでした。地震から命を守るためにはどうしたらよいか、避難場所の確認、怪我をしたときなど犬猫病院でも治療をしてもらえることがわかりました。このような学習は生協にとどまらず、町内会へも広げていければよいと思います。

# 産地体験と学習活動

## ●ぼくもわたしも産直生産者

野菜の種まきから、除草作業、そして収穫までを体験する「ぼくもわたしも産直生産者」に13家族が登録し実施しました。生産者のみなさんからクワを使って畑を耕す作業を教わり、種の蒔きかたや苗の植え方などの手ほどきを受けながら、ブロッコリー、キャベツ、レタス、大根、人参、白菜等を収穫しました。



収穫作業

## ●わが家の味噌作り体験

毎日の食卓に欠かせない味噌を、原料の米・大豆から育てて一年かけて作りあげる「わが家の味噌作り体験」に29家族が登録、実施しました。苗の育苗講習会、田植え、大豆の種まき、畑の除草作業、田んぼの生き物観察、白菜の育苗講習会、稲刈り体験、大豆の刈り取り、大根、白菜の収穫、正月飾り作りと鏡餅作り体験をしました。



大豆の種まき作業

## ●産直ふるさとこ〜ぶの旅

産直商品のふるさとを訪ねる「産直ふるさとこ〜ぶの旅」が、7月26日に「JAみやぎ仙南」の蔵王地区で、7月27日に「JAみどりの」田尻地区で行なわれ、合わせて80人の親子が参加しました。

蔵王コースでは、じゃがいもの収穫体験、自分たちで粉から作り上げる手打ちそば、ブルーベリーの摘み取り、ニジマス釣り体験をしました。



産直ふるさとこ〜ぶの旅

田尻コースは、香辛料で味付けをしたひき肉を豚の腸に詰めて燻製するソーセージ作りにじゃがいもの収穫体験とブルーベリーの摘み取り、田んぼの生き物観察をしました。産直品のふるさとで楽しい夏休みの1日を過ごしました。

## ●産直ふるさと米 田植え・稲刈り体験

5月17日、産直ふるさと米の田植え体験が、「JAみやぎ仙南」丸森地区で行なわれ、9家族27人が参加しました。10月11日には稲刈り体験が、「JAみやぎ仙南」丸森地区で行われ、10家族34人が参加しました。



産直ふるさと米 稲刈り体験

作業の後には、丸森産の食材をふんだんに使ったお弁当を囲みながら、感想や農作業の苦労などを語り合いました。

## ●こどもお魚教室

8月6日、11家族30人が参加して「こどもお魚教室」を開催しました。お魚に親しみ、もっと食べて欲しい、お母さんにも魚料理を知って欲しいとの思いから(株)仙台水産・(株)仙台宮水・(株)渡辺水産の協力をいただき開催しました。魚種当てクイズと食べて魚の種類を当てるクイズを実施。調理実習では、アジを三枚におろし、お刺身と蒲焼きを作りました。



こどもお魚教室

## ●キッズわいわいクッキング

7月30日、10家族25人が参加して「キッズわいわいクッキング」を開催しました。

おいごはんの炊き方、野菜・果物の花のクイズや、産直三陸塩蔵わかめのおいしい戻し方と保存法などを学習。その後、産直釜揚げしらすのご飯、産直鶏肉のバンバンジー、産直みちのく豚のしゃぶしゃぶ、産直わかめと夏野菜のサラダ、産直野菜がたっぷりのスープ、産直牛乳の寒



キッズわいわいクッキング

天などの料理を作り、おいしい昼食をいただきました。

# 食生活・食育活動

## 食のかたりべ

「食のかたりべ」は、新・食生活提案や「こ〜ぶのつどい」テーマを学習し、他のメンバーに伝える活動をしています。2008年度は、初夏に「ゆきちから」、秋は「ふるさと米」について学習し、学習した内容を紙芝居やビデオ・クイズなども使って地域で説明。エプロンスクールでも活動し、「参加者からの“勉強になった”の声にホッとした」との感想も寄せられています。

## 「5ADAY（ファイブアデイ）食育体験ツアー」

5ADAYは食育を通じて野菜や果物摂取の大切さを訴えていく運動で、店舗を教室にした学校の授業として開催しました。「お買い物ゲーム」や「サラダ作り」を通して、野菜や果物に関する知識を学ぶこのツアーに、2008年度は11校の小学校から計793名の児童が参加しました。

また、今年度は各エリアが主催する「親子参加型」の5ADAY食育体験ツアーを初めて5エリアで開催し、親子と一緒に食育を学ぶ機会となりました。



5ADAY「お買い物ゲーム」での売場探検

## エプロンスクール



「大根を一本使いきろう」をテーマに、コープ商品を使った調理実習や新・食生活提案の学習を行なうエプロンスクール

は、県内35箇所で開催され475名が参加しました。



地域主催の親子参加型5ADAY



### ■2008年度開催校

学校名	人数	受入店舗
名取市立増田西小学校3年生	117名	名取西店
仙台市立古城小学校5年生	74名	南小泉店
仙台市立栞江小学校5年生	44名	幸町店
岩沼市立岩沼小学校5年生	135名	岩沼店
大郷町立味明小学校5年生	13名	岩切店
仙台市立柳生小学校3年生	139名	柳生店
大郷町立粕川小学校6年生	12名	明石台店
仙台市立幸町南小学校4年生	74名	幸町店
大郷町立大松沢小学校3・4年生	28名	利府店
仙台市立小松島小学校3年生	99名	幸町店
仙台市立遠見塚小学校3年生	58名	南小泉店

## たべる\*たいせつキッズクラブ

小学生対象の通信教育型食育プログラム「たべる\*たいせつキッズクラブ」は79名のキッズクラブメンバーが登録し、各家庭での取り組みが数多く見られました。登録者アンケートによると、このプログラムに取り組んだことで9割の家庭で「食についての話題が増えた」、7割の家庭で「子どもに変化が見られた」との反応が寄せられました。



キッズクラブ企画「ごはん大好き。お米博士になろう」



## 商品活動

### コープ学習塾

コープ商品について学ぶ学習会を「コープ学習塾」として、合計 97 会場 208 人が参加し、18 社のご協力により開催されました。

(株)クラブコスメチックス様による「コープ化粧品学習会」はコープ化粧品のコンセプトの学習だけではなく、実践としてメイクアップについてのワンポイントアドバイスが毎回好評でした。そのほか、コープの酢、コープの歯磨き、コープの洗剤の学習塾が開催されました。



(株)クラブコスメチックス様による「コープ化粧品学習会」

### お取引先様による商品学習会

お取引先様による商品学習会は、みやぎ生協文化会館ウィズ、みやぎ生協集会室や地域の集会所など 390 会場に 2,711 人が参加し、40 社のご協力により開催されました。

●大塚製薬(株)様の「正しい栄養摂取と適度な運動」では、学習した内容をその場で実践できるように、専門インストラクターによる「簡単ヨガ」が取り入れられた開催でした。



大塚製薬(株)様の「正しい栄養摂取と適度な運動セミナー」でヨガの実践風景

●食育の視点をとらえたカルビー(株)様の「スナックスクール」は、「じゃがいもの話、おやつを食べ方、表示を見て買い物をする話」を親子で参加して学ぶ企画として人気で、合計4会場 159 人(親 59 人、子 100 人)が参加しました。この企画は、カルビー(株)様の「おやつ隊」が、みやぎ生協用に「親子で体験学習できる」内容に新たに作成したものです。

●地産地消として、加美町の(有)菅原商店様による米粉学習会が、大崎地域を中心に4会場 110 人の参加で行われました。米粉を使ったお菓子作りは、簡単に作れることで人気が高く、宮城県産・国内産米粉を使用することへの関心が高いようでした。



(有)菅原商店様による米粉学習会の様子

●100 人を超える学習会の企画として、ハウス食品(株)様の「カレー再発見フォーラム」、カゴメ(株)様の「カゴメ健康セミナー」がみやぎ生協文化会館ウィズにて開催されました。どちらも著名な講師による学習講演と講演内容に合わせた試食会が実施され、好評でした。

ハウス食品(株)様の「カレー再発見フォーラム 2008」では「朝からカレーを食べよう!」というテーマで、朝食に合うカレーを体験しました。



ハウス食品(株)様による朝食に合うカレー

# 平和とくらしの取り組み

メンバーの募金による「ヒロシマ平和行動」「沖縄戦跡・基地めぐり」への代表派遣や、世界に誇れる憲法九条を守り広げる活動に取り組みました。

また、消費者被害を未然に防ぐ活動にも力をいれ、学習会を中心に取り組みました。

## 沖縄戦跡・基地めぐり 親子3組/大人3名 (3月25日~27日)



戦時中住民が避難した隠れガマに入る



沖縄戦跡・基地めぐり報告会



平和祈念資料館

## ヒロシマ平和行動 親子5組 (8月4日~6日)



平和公園の碑めぐり



「原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列

いつもあたりまえにしていることが平和でなければできないことなのだと気づきました。

平和募金は、共同購入注文書と店舗募金箱の設置、書き損じハガキの回収で行なわれています。

2008年度は90万円の募金が寄せられました。

## 「第五福竜丸」学習会 (9/3 生協文化会館ウイズ、9/4 蛇田店)

講師：大石又七氏（元第五福竜丸乗組員） 参加者：計230名

1954年のビキニ環礁における米国の水爆実験で、日本の漁船が被爆した「第五福竜丸事件」の実相について、当時の乗組員大石さん自らの被爆体験を聞き学習しました。あらためて核の恐ろしさ、平和の大切さを考えた学習会でした。

2009年10月には「第五福竜丸展」及び記念講演(会場ウイズ)を予定しています。



講師の大石 又七氏



9月3日ウイズ

## 「生きる権利と日本国憲法」学習会 (7/4 エルパーク仙台)

講師：金子勝氏（立正大学法学部教授） 参加者：141名

日本の政治を日米安保条約から紐解かれ、憲法に基づく軍隊と戦争を認めない福祉国家づくりを提唱。参加者に「憲法の語り部となり、すばらしさを知らせて欲しい」と呼びかけました。



講師の金子 勝氏

## 「消費者庁をめぐる情勢と宮城県内の動き」 学習会 (11/10 生協文化会館ウイズ)

講師：阿南 久氏（全国消団連事務局長） 参加者：104名

「消費者庁創設で何がかわるか」、「消費者としてすべきことは何か」をわかりやすく教えていただきました。あわせて県内の消費者行政を推進するネットワークの動きについても学習し、間近に迫った消費者行政一元化についての理解を深めました。



講師の阿南 久氏

## 出前講座「だめだっちゃ！ついてって」 消費生活研究会によるSF（新商品普及）商法被害を防ぐための学習会

参加型のロールプレイングで悪質商法の手口や被害を防ぐ方法をわかりやすく学習しました。



榴岡店での学習の様子



# 文化活動の取り組み

## こ〜ぷ文化鑑賞会

「文化で彩る素敵なくらし。“心に休日”をあたえたい。」をコンセプトに、お芝居、バレエ、コンサート、伝統芸能など色々なジャンルの生の舞台を、会費を積み立て観るのがこ〜ぷ文化鑑賞会です。仙台と石巻に会があり、会員数は、仙台5,237名、石巻884名になりました。

仙台では5月に「能と狂言」の公演のほか2例会、石巻で4例会のほか、宮城県文化振興財団や放送局など他団体と一緒に特別例会3回を開催しました。



石巻第41回例会



仙台第76回例会



仙台第77回例会

### 仙台例会

■第76回例会 能と狂言 「隅田川」「鬼瓦」

◎5月28日～30日 仙台市民会館

■第77回例会 東京バレエ団『ドン・キホーテ』

◎8月26日～28日 東京エレクトロンホール宮城

■第78回例会 青島広志と仙台フィルの愉快地クラシック

◎1月14日～16日 電力ホール

### 石巻例会

■第40回例会 M's Japan Orchestra / エムズジャパンオーケストラ コンサート

◎4月22日 石巻市民会館

■第41回例会 岩崎宏美 LIVE2008 シアワセノカケラ

◎8月29日 石巻市民会館

■第42回例会 劇団東京ヴォードヴィルショー 花組エキスパレス

あほんだらすけ

◎11月11日 石巻市民会館

■第43回例会 仙台フィルと好田タクトの楽しくクラシック

◎3月5日 石巻市民会館

### 特別例会

■ピアノ・ソナタ「月光」による 朗読劇 月光の夏

◎7月25日 仙台市青年文化センター

◎主催：こ〜ぷ文化鑑賞会

■劇団四季 美女と野獣

◎10月11日～1月25日東京エレクトロンホール宮城

◎主催：劇団四季

■けんみん1,000円コンサート「佐山雅弘トリオ ジャズライブ」

◎3月15日 東京エレクトロンホール宮城

◎主催：こ〜ぷ文化鑑賞会、宮城県文化振興財団、

TBC東北放送、宮城県

## 多くのメンバーの興味関心に応えたウィズセミナー&ウィズ教養講座

### ウィズセミナー

ウィズセミナーは、年間57講座を企画し、のべ1,441名が受講しました。

特に親子で参加できる「ウィズきっすくーる」は、食育NPO おむすびが教える「季節の料理作り」や、利府店で開催した「ベビーサイン」など大変好評で、30講座に818名が参加しました。



きっすくーる「お花見弁当作り」食育セミナー「たべもののふしぎ」



### ウィズ教養講座

ウィズ教養講座は、132講座を企画し、のべ5,153名が受講しました。特にスタジオを使用して体を動かす「フラダンス」「エンジョイびくす」や、手先を使っの「ほのぼの布遊び～布ぞうり～」が人気の高い講座でした。また今年度、親子で参加する企画「親子でとんぼ玉」「おやこでパン作り」や「おやこびくす」「べびいびくす」のように親子で参加する講座が好評でおよそ2,300名のメンバーが受講しました。



おやこであそぼう！ちゃがちゃがといっしょ

# 生協の特性を活かした地域貢献

## 学校・先生方に役立つ情報提供 『COOP 授業に役立つガイドブック』

1. みやぎ生協では、毎年度『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』を県内全小・中学校に 1,500 部配布しています。

この「ガイドブック」は、学校の総合的学習等の授業で役立つ、みやぎ生協の産直・環境・食・福祉などの活動などのさまざまな情報を提供することを目的に作成したものです。

2. ビデオ貸し出し、資料提供・頒布、生協店舗や取引先工場見学、生協事業所職場体験等の受入など実施しました。

2008 年度は職場体験・実習 (37 校)、職場見学 (10 校)、食育体験店舗ツアーや環境・ユニセフ学習などのビデオ貸し出し (26 校)・添加物オレンジドリンクキット頒布 (40 校)・教育講演会・教育講習会 (64 校) など、延べ 186 件を受付しました。2009 年度さらに内容を充実させて、ご案内します。



## 社会教育研修の受け入れ

店舗など生協事業所周辺の中学校、養護学校、高校から、生徒や教員の方の社会教育研修として「職場体験実習」を受け入れました。2008 年度の受け入れは 37 校、約 250 名となりました。

2009 年度は研修事業所の受入カリキュラムをその受入内容を拡充整理して、店舗を中心に、共同購入・学校部・デイサービスセンター・産直コースなどを設定、6 事業部門で受入拡大を予定しています。

## 学校に役立てられている 宮城県学校用品協会の教育助成制度



みやぎ生協子会社の宮城県学校用品協会の「教育助成」が毎年さまざまな教育研究活動や授業などに役立てられています。

2008 年度は、以下の教育助成を行ないました。

### ① 教育講演会講師紹介

- 教育対象：11 件 ● PTA：36 件
- 児童生徒：17 件

### ② 教育実技講習会講師派遣：講師紹介

- 教育対象：1 件 ● 児童対象：鍵盤ハーモニカ講習会 218 件・リコーダー講習会 演奏会 275 件・その他 3 件

### ③ 単一校研究活動助成

県内小中学校 91 校に助成(助成金総額 301 万円・1 校 2 万 5 千円～ 5 万円)。この選出にあたっては、各地区校長会で地区予算に応じて地区内から申請された学校について審議し助成対象校を確定しました。

対象校数・助成金額一覧

単位〈助成校：校・助成金額：万円〉

管内	校数・金額	小学校	中学校	小中合計
仙台市	助成校数	14	5	19
	助成金額	56	25	81
大河原	助成校数	10	5	15
	助成金額	25	12.5	37.5
仙台	助成校数	8	5	13
	助成金額	32.5	20	52.5
大崎	助成校数	12	2	14
	助成金額	30	5	35
栗原	助成校数	5	2	6
	助成金額	12.5	5	17.5
登米	助成校数	5	2	7
	助成金額	12.5	5	17.5
南三陸	助成校数	3	2	5
	助成金額	12	8	20
石巻	助成校数	11	5	16
	助成金額	27.5	12.5	40
県全体	助成校数	68	27	95
	助成金額	208	93	301

# 生協と行政との連携

みやぎ生協の取り組みについて、首長や議員との懇談を重ねました。

## 首長懇談

首長との懇談会は、「安心して暮らせるまちづくり」をテーマに、仙台市周辺の自治体とレジ袋有料化を含め、子育て、学校給食、地域の医療・介護問題など身近で切実なテーマについて懇談しました。

事前に懇談会で聞きたい項目を文書で提出し、回答をいただくスタイルが増えています。

## 懇談先（懇談順）

1	松島町	7	利府町	13	大和町
2	多賀城市	8	岩沼市	14	柴田町
3	登米市	9	山元町	15	白石市
4	名取市	10	巨理町	16	塩釜市
5	栗原市	11	大河原町		
6	七ヶ浜町	12	富谷町		

## 県議懇談

宮城県議会議員のみなさんには、食料自給率向上への取り組み、消費者行政の一元化などを中心テーマとして懇談しました。

懇談先（懇談順）	県議の参加者（敬称略）
多賀城七ヶ浜選挙区	仁田和廣
宮城野選挙区	菊地文博、庄子賢一
若林選挙区	本多 祐一朗
青葉選挙区	石橋信勝、遊佐美由紀、遠藤いく子、相沢光哉
太白選挙区	横田 有史、藤原範典
加美、大崎	皆川章太郎、中島源陽
遠田、大崎	中村功、佐々木征治
大崎	菊地恵一、岩淵義教
泉選挙区	伊藤和博
気仙沼選挙区	内海太、畠山和純

## 市議懇談

1. 仙台市議会議員のみなさんと2008年10月に実施された「ゴミ回収有料化のその後」を主なテーマに懇談しました。

懇談先（懇談順）	市議の参加者（敬称略）
宮城野区	高見のリ子、辻隆一、渡辺博
若林区	相沢和紀、福島かずえ
青葉区	鎌田城行、すげの直子、花木則彰
太白区	大槻正俊、岡本章子、小山勇朗、嵯峨サダ子、船山由美
泉区	安孫子雅浩、石川建治、小田島久美子

2. 気仙沼市議会議員

環境、福祉・子育て、食の3つのテーマで懇談しました。その内容が2009年2月7日付の三陸新報に掲載されました。

懇談先（懇談順）	市議の参加者（敬称略）
気仙沼市	小山和廣、畠山光夫、田中富治、昆野牧恵、齋藤司、熊谷伸一、村上佳市、白井真人

# 災害時における県内各自治体との連携

## 防災訓練・研修会・セミナーへの参加

みやぎ生協では、毎年宮城県や各自治体、防災安全協会、社会福祉協議会などが主催する防災訓練・災害対応研修会・災害ボランティアセミナーなどに参加しています。

2008年9月1日、宮城県の総合防災訓練(美里町)に参加しました。

この訓練は、災害対策基本法 48 条、宮城県地域防災計画に基づき、大地震等の災害発生時において防災関係機関・各種団体及び地域住民が一体となり行なう訓練で、宮城県生活協同組合連合会とともに参加しました。

当日は避難所への食料品・生活物資の輸送の任務でトラック 3 台、6 名で救援物資輸送訓練を行ないました。



宮城県総合防災訓練

## 2008 年主な参加一覧

5/22	宮城県図上訓練
6/8	白石市防災訓練
6/12	仙台市総合防災訓練
6/28	災害ボランティアセンター運営スタッフ基礎研修
9/1	宮城県総合防災訓練
9/10	災害ボランティアセンター運営スタッフ研修①
9/24	災害対応研修会
10/31	災害ボランティアセンター運営スタッフ研修②

その他、各地区で開催された防災講演会や防災研修会、防災シンポジウムなどにも参加しています。

## 自治体との応急物資の供給協定

大規模地震などの災害発生時、自治体からの要請に応じて生活物資の確保・供給するための協定「災害時における応急物資の供給協定」を各自治体と締結しています。現在20の自治体と協定締結しています。

### 協定締結自治体

仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町・七ヶ浜町・利府町・大和町・大郷町・富谷町・大衡町・名取市・岩沼市・亘理町・山元町・石巻市・大崎市・登米市・東松島市・白石市・加美町・宮城県(宮城県とは宮城県生協連が協定を締結)



栗原市への救援物資配送

## 緊急募金活動

2008年6月14日発生した岩手・宮城内陸地震の際は県の要請を受け、延べ8日間で1440個の弁当を栗原市に配送、生活用品や衣料品など約1万点を無償で提供しました。また、この間、宮城県生活協同組合連合会とみやぎ生活協同組合は、宮城県内だけでなく日本全国から緊急募金に取り組み、9月29日義援金を宮城県伊藤克彦副知事に贈呈しました。

義援金総額は、42,012,402円。内訳は、宮城県生活協同組合連合会分が全国75の生協や個人から寄せられた36,960,202円とみやぎ生活協同組合分がメンバーや職員から寄せられた5,052,200円です。



義援金贈呈式

# 生協の国際協力活動

## ICA アジア太平洋地域・生活協同組合 研修生の受け入れ

みやぎ生協では、毎年、ICA（国際協同組合同盟）アジア太平洋地域生協委員会から選抜された研修生の受け入れを行なっています。

2008年は、インドのライガットバザール(Raigad Bajar)生協から2名、タイのイーガット(EGAT)生協から1名、合計3名の研修生を受け入れ、2週間にわたり以下の研修を行いました。

「みやぎ生協の事業の現状と課題」「みやぎ生協の歴史とみやぎ生協のアイデンティティ」「流通情勢とみやぎ生協の商品政策」「みやぎ生協の産直活動」「店舗事業」「共同購入事業」「メンバーの声と事業への反映」「メンバー活動」



共同購入部での研修の様子

アジア各地の生協発展のための貢献活動を今後とも進めていきます。

## 国際協力（フェアトレード）

1999年より共同購入ではフェアトレードに取り組み、2008年度は計6回フェアトレード商品をご案内しました。商品選定には国際協力委員会が関わり、メンバーの視点で検討が行なわれました。このほか、国際協力委員会では、フェアトレードを知っていただく機会として、学習会「フェアトレードってなあに?」、「フェアトレード商品展示会」を開催し、参加メンバーからは初めてその意味が良くわかった、魅力にふれた等の声が多数寄せられました。



「フェアトレードってなあに?」学習会(講師:(株)フェアトレードカンパニー様)



フェアトレード商品

フェアトレードとは…「公正貿易」または「草の根貿易」と訳されています。フェアトレードは、貿易を通じ、途上国の弱い立場の人々がものを作ることによって自立ができるよう支援する活動です。商品の生産者が経済的に自立する手助けとして、その商品を購入するという形の国際協力です。

## ユニセフ活動

ユニセフ(国際連合児童基金)は世界の子どもの命と健康を守るために活動する国連機関です。その活動は「平和と暮らしを守る」という生協の基本理念に一致することから全国の生協で取り組まれており、みやぎ生協では1979年よりユニセフ活動を支援しています。

2008年度は、相次ぐ災害や紛争への緊急募金のなか、「はんリーダー&メンバーのつどい」での「募金回収袋」によるはんメンバーの募金、地域のメンバー祭り等での募金活動やユニセフグッズの販売、店舗などを会場にした「ユニセフパネル展」(5会場)、「ユニセフハンド・イン・ハンド」(12会場)、「ユニセフ・カレンダー募金」



ユニセフパネル展



ハンド・イン・ハンド

(13会場)など、年間を通して募金活動が行なわれました。

また、回収された牛乳パックの売却益の全額募金、29社のお取引先様のご協力による「ユニセフキャンペーン募金」も継続して取り組まれ、合計18,099,149円が寄せられました。

### ■ 2008年度ユニセフ募金額

メンバーからの一般募金	7,764,704 円
牛乳パック売却益の募金	3,290,923 円
お取引先様キャンペーン募金	1,041,065 円
ミャンマーサイクロン緊急募金	3,088,228 円
中国四川大地震緊急募金	2,914,229 円
合計	18,099,149 円

### キャンペーン募金にご協力いただいたお取引先様 (2008年4月~2009年3月)

- (株) J-NET ●アサヒフード&ヘルスケア(株) ●一正蒲鉾(株)
- イトウハムデイリー(株) ●カバヤ食品(株)仙台 ●カンロ(株)
- 銀河フーズ(株) ●クラシエホームプロダクツ ●(株)クレハ
- (株)湖池屋 ●コーサーコスメポート(株) ●三幸製菓(株)
- (株)シーテック仙台 ●(株)鈴力水産 ●(株)仙水デイリー
- (株)仙台食品 ●第一三共ヘルスケア(株) ●大王製紙(株)
- 東洋水産(株)東北 ●東北日本ハム(株) ●成田食品(株)
- (株)不二家 ●丸大食品(株)仙台 ●明治乳業(株)
- 明治製菓(株)東北 ●森永製菓(株) ●森永乳業(株)
- 雪印乳業(株) ●ライオン(株)

(50音順・敬称略)

## 第3章

# 地域の助け合いと福祉活動

*ピックアップハイライト	28
*メンバーどうしの助け合いの活動	30
*地域で福祉の輪を広げる活動	32
*生協の福祉事業	34

### みやぎ生協は“子育て世代”をみんなで応援しています

#### ★ 子育てふれんず ★

子育て世代が興味関心のある情報を届けたり、親子のスキンシップを目的に交流会を開催し、子育て世代を応援する「子育てふれんず」。会員は2,550名になりました。年4回発行される「子育てふれんずニュース」も子育て真っ最中の編集委員10名が作成しているので、“知りたい”旬な情報が届けられるとたいへん好評です。交流会は子どもの年齢に合わせて3回開催しました。



子育てひろば



子育てひろばスタッフ



子育てひろば

#### ★ 子育て・教育サロン ★

講師を囲んで、子育てや教育に関する悩みを相談したり、参加者同士が交流を行う“子育て教育サロン”は、7会場（虹の丘店・台原店・南光台店・利府店・蛇田店・緑ヶ丘地区・栗原地区）でのべ10回開催され102名と多くの参加がありました。

「子どもの心によりそう」「ゲーム脳の話」など、わかりやすく具体的な話を聞くことができ、「子どもの気持ちになって考え、親子関係を見つめなおしてみよう」「ゲームではなく絵本の読み聞かせを実践してみよう」という気持ちになったと、参加者からはたいへん好評でした。



子育てふれんずニュース編集委員の皆さん



子育てふれんず交流会

#### ★ 子育てひろば ★

子育て中みなさんが出会いを広げ、少しの時間ほっとひと息つける場所を提供する“子育てひろば”は県内30会場で308回開催され、親子で4,746人の参加がありました。「毎回楽しみにしています」「もっと早くから参加すればよかった」など、参加者からうれしい声が寄せられました。

子育てひろばを運営するボランティアは子育てが終了した方や子育て真っ最中の方までのべ1,102人が活動しました。ボランティアからは「お子さんの可愛いしぐさにいやされています」「思っていた以上にみなさんから喜ばれてうれしい」と感想が出されています。



ゲーム脳(利府店)



## ★ マミースタッフ ★

子育て世代が生協の企画・行事に参加しやすくするため、お子さんを預かる「マミースタッフ(託児サポート)活動」は、地域に定着し年々広がってきています。

安心して参加することができたと、子育て世代にたいへん好評です。マミースタッフの拡充をはかるため養成講座を4会場で開催しました。



幼児のケガの対処法



マミースタッフ託児活動



マミーサポートルーム蛇田での託児

## ★ マミーサポートルーム ★

4月に蛇田店(石巻市)の店内に子育て中のお母さんが「自分の時間」が作れるように応援するため、お子さんを預かる「マミーサポートルーム(幼児一時預かり)」がオープンしました。

週3日(火木金)預かり理由を問わないことやスタッフの温かい配慮などが好評で、リピーターさんが増えるなどご利用のメンバーに喜ばれています。

## ★ 子育て応援団すこやか2008 ★

9月に開催された「子育て応援団すこやか2008」(主催:宮城県、仙台市、ミヤギテレビほか)に参加しました。みやぎ生協が現在取り組んでいる子育て応援の取り組みを、事業と活動の両面から紹介し、多くの参加者でにぎわいました。

## ★ 子ども企画 ★

新田東店内と名取西店メンバー集会室で開催中の「子ども企画」は、毎回楽しみにしている参加者も多くなりたいへん好評です。

店内で行う新田東店では親子連れだけでなく、お買い物中の高齢のメンバーさんも足を止めて笑顔でご覧になったり、名取西店では参加者同士が顔見知りになりお母さん同士友だちの輪も広がりました。



新田東店「ピンポンパン☆」



名取西店はなももキッズ」

# メンバーどうしの助け合いの活動

## こ～ぷくらしの助け合いの会

メンバーどうしの助け合い活動として1985年に設立されたこ～ぷくらしの助け合いの会は、高齢者のくらしの自立や子育て家庭支援など“お互いさま”の気持ちで支えあい、安心して暮らせるまちづくりのため活動を続けています。その活動は県内広範囲に広がり、現在の会員総数は2,681人、年間の活動時間は32,162時間となりました。

活動は高齢者宅へのお掃除が多く、次いで食事作りや話し相手などとなっています。また、子育て家庭支援として産前・産後のお母さんへの援助などにも取り組み活動は多岐にわたっています。



出産まもないお母さんの代わりに活動会員と一緒に児童館へ



お掃除の活動



新入会員研修で車椅子の操作体験



ふれあい弁当

1. 活動会員を増やす取り組みの一つとして、メンバーに助け合いの会をお知らせする「出前講座」の開催や生協店舗などでお知らせができるように「助け合いの会のぼり」を活用して宣伝に取り組みました。新しく活動会員として登録したメンバーは106人になりました。
2. こ～ぷくらしの助け合いの会で、お引き受けできない活動は他団体を紹介したり、難しいケースは行政などの専門機関と相談をしながら、活動を進めました。  
また、コーディネーターを対象とした「困難事例の解決法」の学習や相談員としての心構えの学習を通しスキルアップを図りました。
3. 利用会員の安否確認や会員の交流を図る目的で始まった「ふれあい弁当」のお届け活動を今年も開催しました。352人のボランティアが調理や配達に参加し531個のお弁当をお届けすることができました。受け取った利用会員からは「季節感あふれるおいしいお弁当をいただいて嬉しい」と感謝の声が寄せられました。
4. こ～ぷくらしの助け合いの会相談窓口は、仙台市八乙女・こ～ぷのお家緑ヶ丘・こ～ぷのお家いしのまきの3ヶ所で開設し、太白区・石巻市の3ヶ所に相談窓口を開設し、およそ620件の相談を受け付けました。

今後は、助け合いの会利用の相談だけではなく介護保険など福祉全般に関する相談を受ける窓口としての役割を発揮できるよう、窓口を仙台市八乙女に置き、相談員のレベルアップを図ります。

### こ〜ぷふれあいお食事会・ふれあいお茶会

閉じこもりがちな高齢者と一緒に食事をしたり歌を歌ったり楽しいひと時を過ごす「ふれあいお食事会」「ふれあいお茶会」を開催しました。

「ふれあいお食事会」は、桜ヶ丘店、松島店、白石店で行なわれ、530人の高齢者、371人のボランティアが参加しました。

また気軽にお茶を飲みながら行なわれる「ふれあいお茶会」は7会場で開催され、549人の高齢者と174人のボランティアが参加しました。



ふれあいお茶会（南光台店）

### みやぎ生協福祉まつり

福祉共同作業施設とメンバー・地域住民との交流を目的として「であい・ふれあい・みんなともだち」を合言葉に開催される福祉まつりは、塩釜杉の入店、巨理店で開催しました。メンバーとボランティアなど850人を超える人たちが参加しました。



福祉まつり 巨理店

●参加された福祉共同作業施設

塩釜杉の入店：「さくら学園」「あすなるホーム」「藻塩の里」「松の実」  
巨理店：「ゆうゆう作業所」「工房地球村」「えいむ巨理」「ほのぼの園」「しおかぜ福祉会」



ほのぼの園のみなさん（福祉まつり 巨理店）



塩釜市ジュニアリーダーも活躍（塩釜杉の入店）

# 地域で福祉の輪を広げる活動

## ふれあい製品のお店 「はあと」の支援

「はあと」のお店は、知的障がい者が販売を経験しながら周囲の人々と関わりをもち、社会参加を目指すことを目的とした「仙台市知的障害者販売業務訓練事業」を行なう場所の一つです。

みやぎ生協の支援は、2001年からスタートし8年が経過し、この間、訓練を修了した研修生は223人になり知的障がい者の就労の一助になっています。

販売する製品は仙台市・知的・身体・精神障がいを含む45の施設で作られています。

また、お店には毎月ボランティアとして多くの方が協力してくださっており、のべ295名の方が活動しています。



「はあとまつり」(幸町店)



ふれあい製品(幸町店)



仙台ローズガーデン見学  
(南小泉店こ〜ぶ委員会)



工房かやの実見学(六丁の目店こ〜ぶ委員会)

## こ〜ぶふれあい便

ご高齢やお体が不自由な方、ご家族の介護や産前産後・子育て中で買物に行きたくても行けない方のために、食料品や日常必要な商品をお届けし、その生活を支援する買物代行サービスです。

サービス実施店舗にて、配達スタッフが商品を購入し、ご自宅までお届けいたします。現在の実施店舗は、西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、六丁の目店、柏木店、鶴ヶ谷店、柳生店、八木山店の11店舗と仙台市近郊の一部地域となっています。



ふれあい便の配達

## 福祉共同作業施設との交流

地域にある、福祉共同作業施設への理解と交流をすすめる活動は、定期的なボランティア活動のほか、こ〜ぶ委員会を中心に17回の訪問・交流が行われ、251人が参加しました。

また、店舗での施設商品の供給をはじめ、みやぎ生協文化会館で開催される会議などのお弁当注文などをとおしても、福祉共同作業施設の運営支援をすすめました。

## みやぎ生協 「こ〜ぶほっとわ〜く基金」

1992年に、みやぎ生協設立10周年を記念して設立され、剰余金から積み立てた5億円の基金をもとに、その果実(利子)を宮城県内の地域福祉向上のための活動をしている団体・個人に資金助成している基金です。

今年度は22団体に318万円の助成を行ないました。開設以来268団体へ5,205万円の助成になりました。



こ〜ぶほっとわ〜く基金贈呈式

### みやぎ生協こ〜ぶほっとわ〜く基金助成団体および案件

■ 2008年度上期 助成数:13団体 助成額:175万円

1	みやぎ夢燈花 「夢燈花2008の開催のための講師料・キャンドルづくり」
2	宮城県難聴児を持つ親の会 「ヴェルボトナル法指導・勉強会開催」
3	みやぎ盲ろう児・者友の会 「みやぎ盲ろう児・者友の会設立記念講演会開催」
4	社会福祉法人 松の実福祉会 福祉生産工房 松の実 「花壇整備と施設農園作業に使用する耕運機の購入」
5	特定非営利活動法人 グループゆう 「発達障がい者就労支援事業として菓子工房開設での設備・備品の整備」
6	特定非営利活動法人 ほっぴ 「障がい者就労支援事業としてのパソコントレーニング用のパソコン購入」
7	階上地区くるみの会 「くるみの会施設老朽化による入り口ドアの改修」
8	発達支援ひろがりネット 「第3回支援情報交換会開催」
9	パーキンソン病患者とその家族の会 「パーキンソン病患者とその家族の会の広報誌発行のためのパソコン等購入」
10	パソコン要約筆記 文字の都仙台 「パソコン要約筆記出前サービスおよび入力者の訓練・レベルアップ事業」
11	みやぎ学校ソーシャルワーク研究会 「学校における福祉職の活用を知る “学校ソーシャルワーク in 仙台” の開催」
12	長町まざらいん (新しい街を考える会) 「小児科医による子育てサロンおよび情報提供事業」
13	どんどこどん 「人形劇ボランティアグループ立ち上げ時の機材・製作の購入および自主公演に関わる費用」

■ 2008年度下期 助成数:9団体 助成額:143万円

1	金岡律子 方言を語り残そう 「方言を語り残そうの養成講座開催」
2	福祉団体 うつ患者会仙台 「シンポジウム『うつ社会を生きる』開催」
3	出前マジック歩み会 「高齢者、障がい者・児童各々場所、会場・出前マジック公演活動での音響備品購入」
4	特定非営利活動法人 ロージーベル 「少年院の少年向けの番組作成事業」
5	仙台傾聴の会 「傾聴ボランティア養成講座開催」
6	松尾英章 「大越桂氏の詩による・いのちのこぼれコンサート開催」
7	ボランティアサークル こだま会 「第9回ボランティア芸能ふれあいのつどい・交流会開催」
8	特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台 「クリーンボランティア530 (ゴミゼロ) 活動支援」
9	WRAP研究会 in せんだい 「WRAPのファシリテーター養成講座への参加費用」

## 2008年度 福祉関係受賞者

■ 厚生労働大臣ボランティア功労団体表彰

こ〜ぶふれあいお食事会桜ヶ丘店

■ 宮城県社会福祉協議会ボランティア功労表彰

内田 典子さん(こ〜ぶくらしの助け合いの会コーディネーター)



こ〜ぶふれあいお食事会 桜ヶ丘店



内田 典子さん

■ 宮城県社会福祉協議会ボランティア団体功労表彰

こ〜ぶふれあいお食事会松島店  
みやぎ生協気仙沼こ〜ぶ委員会



こ〜ぶふれあいお食事会 松島店



気仙沼こ〜ぶ委員会

# 生協の福祉事業

## 社会福祉法人

「こ〜ぶ福祉会」は、みやぎ生協の福祉の理念を介護保険事業で実践するために、1999年に設立された社会福祉法人です。総合的な介護サービスをご利用者の立場に立って提供しています。

● 2008年は福祉会の3番目の「こ〜ぶのお家」となる「こ〜ぶのお家緑ヶ丘」が仙台市太白区の日緑ヶ丘店の跡



こ〜ぶのお家緑ヶ丘開所式

地に4月に開設しました。

地域のこ〜ぶ委員会の皆さんを中心に応援団がつくられ、開所前からチラシ配布をはじめ、お知らせ活動

をしていただきました。開所後も秋祭りのお手伝いやふれあい喫茶の運営など支えていただきました。

ボランティアも40人登録いただき、男性の登録も多く、毎週決まった曜日に利用者のマージャンの希望にこ



緑ヶ丘デイサービスセンター

たえて、1人の利用者に3人のボランティアがつきあっていたりすることもありました。



予防教室

● 仙台市から「桜ヶ丘地域包括支援センター」を受託し、高齢になっても安心して地域で暮らしていけるように様々な活動をすすめました。

桜ヶ丘・川平地域の町内会や福祉施設、病院等と連携し、介護予防教室の開催や学習会を開催しました。

● ヘルパーステーションは、登録ヘルパーたちが月1回自分たちで学習会を企画し、スキルアップやコミュニケーションを図るユニークな運営を行なっています。

訪問介護をするヘルパーたちは、一人で利用者のお宅

に伺い仕事をするのがほとんどですが、月1回はみんなで集まり研修会を行なっています。テーマは自分たちで話し合い、企画しています。他の施設ではみられないヘルパー自身の積極的な運営・参加が信頼されるヘルパー



こ〜ぶのお家いしのまきデイサービスセンター



こ〜ぶのお家いしのまきデイサービスセンター

ステーションをつくっています。

● 訪問看護ステーション、ケアプランセンター、福祉用具貸与サービスも生協らしい温かいサービスをこころがけ、地域で安心してく

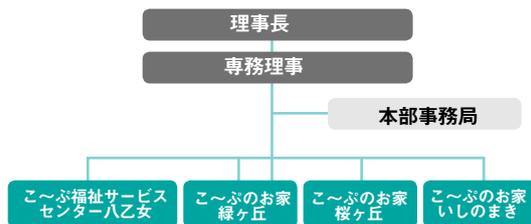
● 福祉会の3つの「こ〜ぶのお家」は、多くのボランティアや後援会、そして地域に支えられ活動しています。「こ〜ぶのお家桜ヶ丘」は年間延べ1,800人のボランティアがデイサービスを支えています。

「こ〜ぶのお家」には、地域の方だけでなく、たまに生協職員もボランティアに来てくれます。得意なお寿司を握ってくれたり、オリジナルな音楽を披露したり、お祭りの手伝いに参加してくれたり、いつもと違った一面も見せてくれています。

### 社会福祉法人 こ〜ぶ福祉会「基本理念」

1. 心豊かで健やかな暮らしのお手伝い
2. 優しさと思いやりを持った人づくりのお手伝い
3. ふれあいとぬくもりのあるまちづくりのお手伝い

### 社会福祉法人 こ〜ぶ福祉会 経営組織図



## 第4章

# 事業活動・職員の活動

*ピックアップハイライト	36
*店舗事業について	38
*共同購入事業について	40
*サービス・共済事業について	41
*職員の制度・教育	42
*お取引先様とのパートナーシップ	43
*2008年度の事業の決算概要	44
*組織概要データ	45
*みやぎ生協の機関運営とコンプライアンス経営の仕組み	46
*プレスリリース	47
*1年間のマスコミ報道から	48

## メンバーさんから 感謝の言葉をいただきました

### 《店舗》

#### 【幸町店】

店内で子供さんがエスカレーターの吸い込み口に手がはさまる事故が発生しました。異常に気づいた農産アルバイトの3人が、それぞれ役割分担し、エスカレーターを非常停止させ子供さんの手を安全な状態にした上で、親御さんと店長に事態を伝えました。怪我をした手も氷で冷やしました。結果的にはすばやい行動により、大惨事を未然に防ぐことができました。事故の翌日メンバーさん宅に店長が訪問した際、「ありがとうございました、ご迷惑をお掛けしました。」との感謝の言葉を頂戴しました。



幸町店農産アルバイトのみなさん

#### 【黒松店】

福島市にお住まいの女の子が仙台市の科学館を訪れた際、公園で水浸しになってしまい、近くの黒松店の衣料売り場に来られました。初めての店の売り場で商品を探している様子だったので、衣料のパートさんが声がけし、親切かつ迅速な対応をしました。後日、感謝とお礼のはがきが黒松店に郵送されました。

#### 【八木山店】

八木山店を利用しているメンバーさんより。  
「レジで並んでいた際、後ろに並んだメンバーさんが買い物バスが出る時間が迫っていて困っていたので先に譲ったところ、その前の方も、前の方もと譲り、買い物バスに間に合いました。とてもいい雰囲気になりました。さらにレジパートさんが、順番を譲ったメンバーみなさんにレジの際、都度「譲っていただきありがとうございました」と声を掛けていて、輪をかけてとてもいい気分になりました。」

#### 【大河原店】

シルバーカーを押してくるメンバーさんは、買い物した商品を前のカゴに入れて帰りますが背が低く、サッカー台までカゴを運ぶと商品を入れるのが大変そうでした。袋に入れてあげると袋を取っ手に提げて帰るのも大変そうな様子から、その場で直接前のカゴに入れてあげた方が楽に思えたので「お入れして宜しいですか」とひと声かけてお入れするようにしています。対応の仕方として決めているわけではありませんが、メンバーさんに合わせた対応を心掛け喜ばれています。



大河原店レジのみなさん

#### 【貝ヶ森店】

貝ヶ森店を利用しているメンバーさんより。  
「生協をいつも利用し、問題がある時は苦情を申し出ています。今回対応してくれた、貝ヶ森店の店長はすばらしかった。松茸が大好きで、「松茸弁当」950円を購入した際、蓋にあった松茸の絵は、太くて立派だったが、実際には1mmくらいの薄い松茸が1枚入っているだけ。さらに食感、匂い、色も悪いので、苦情を言ったら、店長の対応がすばらしくて、感動しました。嫌味がなく、誠意があって、一生懸命で、何度も電話をいただいて、最後まで責任もって対応していただきました。私は昔、百貨店で職員教育をしていましたが、店長みたいな人ならスカウトしたい。」

#### 【名取西店】

名取西店を利用しているメンバーさんより。  
「本日も13時すぎ頃、夕飯の買い物に行きました。私は食料品と洗剤を買ったのですが、エコバックを

一つしか持っておりませんでした。レジの方はそのことに気づいて、洗剤用の袋をくださいました。他のスーパーで、エコバックを忘れた時に嫌な顔をされたことがあり、今日の方の対応はとても嬉しかったです。また、私はベビーカーで子供を連れて行ったのですが、かごを袋詰めのため運んでくださいました。これも、生協のレジの方にいつも感謝しております。またある時、私はおつりの小銭を床に落としてしまいました。子連れてしたし見えないところへ落ちてしまったのであきらめるつもりでした。しかしレジの方は、並んでいる他のお客さんたちがいなくなった後、声をかけてくださり、サービスカウンターの方と一緒に探してくれました。おかげさまで小銭も見つかり、笑顔でのお見送りに気持ちよく帰ってきました。仕事が忙しい中で親切な対応をするのは、大変なことだと思います。本当にありがとうございました。これからも名取西店を利用させていただきたいと思います。」

## 《共同購入》

### 【南支部】

メンバーさんは高齢で、注文書を記入するのが大変でした。しばしば先週注文した商品を間違えてまた注文してしまうことがあり、ご家族が日々心配されていました。そんな中、毎回丁寧に注文内容を聞き取り、注文がダブっていないか確認しながら大変親切に対応してくれているパートさんについて、メンバーご本人から伝えられたご家族より「きちんとした温かい信頼のおける対応をして頂いているおかげで、高齢の姉が喜んでおり、私も安心です。本当に感謝しています。」とお礼の言葉がありました。

### 【北支部】

入協もないパートさんがメンバー宅に配達にお伺いした際、メンバーさんの自家用車のヘッドライトが点灯したまま駐車されていたので、バッテリーが上がってしまうかもしれないとすぐにその旨をメンバーさんに連絡しました。大変感謝され、当日わざわざ北支部へお褒めの電話をいただきました。些細なことかもしれませんが、新人ながら普段からメンバーさんとのコミュニケーションを大切に、信頼を強くした事例です。

### 【富谷支部】

先日、隣の職場に勤務する男性職員が草刈作業中に具合が悪くなっているところをパートさんが見つけ、チーフと連携の上、迅速且つ懸命な救助活動により、事無きを得ました。パートさんは地域で実施された救急救命講習に参加した直後この出来事に遭遇、動揺しながらも学習した内容の一つ一つを行動に移した結果です。大変感謝されたことは言うまでもありませんが、これからも共同購入では救急救命講習の受講を拡大し、不測の事態に対応出来るよう、今出来る自分たちの最善の行動がとれるよう努力していきます。

## AED（自動体外式除細動器）導入

みやぎ生協では、不測の事態に備えるとともに近い将来高い確率で想定される宮城沖地震や災害に備え、共同購入のトラックと店舗にAEDを設置し、救急救命講習を受講しました。

店舗の設置は14台、共同購入のトラック搭載は11台、合計25台となります。

今後も総合的な安心体制の確立を目指し、引き続き職員の救急救命講習を受講を進め、社会的な役割を果たしたいと考えています。

■店舗の設置（14店舗）：2008年8月11日  
黒松店、桜ヶ丘店、幸町店、明石台店、榴岡店、愛子店、八幡町店、白石店、岩沼店、加賀野店、亶理店、古川南店、塩釜栄町店、蛇田店

■共同購入のトラック搭載（10支部11台）：  
2008年8月28日  
2台～仙台南支部

1台～仙台北支部・仙台東支部、仙台西支部、  
富谷支部、石巻支部、古川支部、  
迫支部、柴田支部、気仙沼支部



泉消防署による救急救命講習会（八乙女本部）

# 店舗事業について

## 店舗事業全体についてと新店

みやぎ生協は、県内48店舗（スーパーマーケット47店舗、衣料館1店舗）で営業、メンバーへふだんの食とくらしを豊かで便利にする商品やサービスを提供しています。

### 1. 新店の開店

2008年4月4日に石巻地区にメンバー向けのお買い物中託児サービスとキッチンスタジオを併設した「蛇田店」、5月15日に、「塩釜栄町店」、6月26日に新寺店の3店舗を開店しました。



蛇田店開店

### 2. 既存店の改装

外装と冷蔵ケースの老朽化対処のために11月28日に「関上店」、12月18日に「虹の丘店」を改装オープンしました。スーパーマーケット部分を買いやすくするため大幅にレイアウトを変更し、4月24日「六丁の目店」、1月22日「大代店」、2月5日「黒松店」、2月19日「高砂駅前店」を改装オープンしました。テナントの撤退に伴いレイアウトを変更して3月12日「塩釜杉の入店」、3月19日「国見ヶ丘店」をそれぞれ改装オープンしました。

### 3. 食材王国みやぎ地産地消の日の取り組みと生産者応援キャンペーン

2008年度は「地産地消の日」として毎月第一金・土・日曜日に、長年育ててきた産直品や宮城県産品・それを原料とした加工品を普及してきました。

また、原油値上げ、飼料・肥料の値上げが続き経営の困難さが増している産直生産者を応援するため、8月度から委員会・職員が一緒になって産直品・地場品の利用普及と生産者へ「応援メッセージ」を送る取組みを進めました。

### 4. メンバーの生活を支えるお買い物企画

6月21日から「新ポイント制度」と「おすすめくん」がスタートしました。10月には第1土曜日

の「コープの日5%値引き」を終了、以降は毎月1日と毎週土日は「ポイント3倍デー」、毎週火曜日は「どんどんたまるスタンプキャンペーン」、「毎月10,20,30」は「シニアメンバーデー」、毎月15日はコープ商品10%引きの「いいコープの日」などメンバーが利用しやすいように恒例企画を配置し、メンバーの支持を集めています。3月からは月末恒例のスーパー朝市9時開店を全店開催に変更しました。

また、商品の価格については、2007年秋以降からガソリンの高騰などに対応して普段の生活に利用する食料品や日用品を中心に「価格凍結宣言」として価格サービスを追加し、さらに2008年9月からは「値上げSTOP! 暮らし応援」としてこれまで行なっていた価格サービスを

1つにまとめ展開しました。9月のリーマンショック以降「コープの節約応援3000品目値下げ」として発展させ好評を得ました。



お買い物企画

### 5. 補助犬受け入れセミナーの開催

10月23日に各店のレジ担当職員55名を対象に財団法人日本盲導犬協会仙台訓練センターの職員・PR犬の指導のもとに「補助犬受け入れセミナー」を開催しました。

学習内容と目的は、身体障害者補助犬法の概要、盲導犬の訓練内容や動きを盲導犬の実演を交えて紹介、誘導のポイントなどの学習と体験をとおして目の不自由な方に限らず他の障がいを持つ方々へ今以上に安心してお買い物ができるようにすることです。

なお、2002年から盲導犬の育成のための募金活動にも取り組んでおり、その額は1千万円を超えました。



補助犬受け入れセミナー

## 誰にでも安心してご利用いただける 店舗施設づくり

### 1. 正面をガラス面とし自然採光を活用した、明るい店内の様子が視認できる店づくりを、蛇田店・塩釜栄町店・新寺店で実現しました。

塩釜栄町店は、宮城県が推進する、高齢者や障がい者等の社会のあらゆる分野の活動への参加促進と必要な環境の整備を行なう、だれもが住みよい福祉のまちづくりの推進に関して、功績が認められ、「だれもが住みよい福祉のまちづくり表彰」について、宮城県より表彰を受けました。



まちづくり表彰式

### 2. 新店に「ひろびろトイレ」を設置しました

「ひろびろトイレ」は、車椅子を利用した方はもちろんのこと、人工肛門・人工膀胱利用者（オストメイト）のパウチなど洗浄用具の設置、大人のオムツ替えの出来る介護用ベットの設置、子ども連れの利用者の配慮からベビーチェアを併設して多目的に使用していただける空間としました。



多目的トイレ

### 3. 新店の「ひろびろトイレ」に通話ができる緊急呼出装置を設置しました

「ひろびろトイレ」はどなたでもご利用いただけるトイレです。安心してトイレを使用していただくため、緊急呼出ボタンを設置させ、お困りのときは何時でも職員と通話ができます。

### 4. 新店のお客様用トイレに工夫を施しました

- (1) 男子用女子用共に、トイレブース内にベビーベットを設置しています。また、洋式便器には幼児が利用しやすいように子ども用便座を用意しました。
- (2) 手洗いは、子ども用として低いものも用意しました。

### 5. 新店の乳児室

車椅子の方も利用できるように、流し台を車椅子利用が可能な洗面化粧台を採用し、授乳時のプライバシーを考えてカーテンで仕切れる様にしています。

### 6. 点字付内部レイアウト板の設置

新店の「ひろびろトイレ」「お客様用トイレ」「乳児室」の入口外部に、目の不自由な方も利用しやすいように点字付の内部レイアウト案内板を設置しました。(合計17店舗で設置が済みしました)

### 7. 新店の水飲み場

車椅子でアプローチしやすいデザインの水飲み場を採用しています。

### 8. 新店では、バリアを極力排除した店づくりを行いました。

設計の段階で「段差」を作らない工夫を行ないました。段差を避けられない場合は、階段に2段手すりをつけ、身長差に対応した仕様にし、手すりには、方向を示す点字シールを標準仕様として取り付けました。

### 9. 新店の駐車場

- (1) 店舗出入口に一番近い位置に、車椅子用の駐車区画を設け、乗降スペースを両側に設置し、片側には、雨の日のための屋根を設けています。(合計12店舗で設置が済みしました)



屋外休憩所と駐車場

- (2) 車椅子用の駐車区画に隣接して「高齢者用」の駐車区画を設けました。(合計18店舗で設置が済みしました)

### 10. 新店で火災時の避難誘導でもユニバーサルデザインを採用

- (1) 防火シャッターに音声付きパトライトを設置し、聴覚障がい者や視覚障がい者の方に音声と回転灯で防火シャッターが降下している事を知らせます。シャッターは障害物接触停止装置を取付けています。
- (2) 売場避難口誘導灯に音声及びフラッシュライト付を採用。安全に避難が出来ます。

#### 「耳」マークへの対応

店舗のレジ部門で聴覚障がいの方が持参する「耳マーク」への対応を2006年2月からスタートしました。「耳マーク」は、聴覚に障がいを持っていることを相手にお知らせするマークです。また、よりコミュニケーションが取れるように対話カードを用意しました。

# 共同購入事業について

## 共同購入事業について（個人宅配）

**信頼回復を柱に利用者を増やす取り組みに全力をあげた1年でした**

餃子事件を受けた営業活動の自粛もあり、2008年度の共同購入利用者は前年実績を下回る厳しいスタートとなりました。営業活動を再開した4月1週以降は、新しく共同購入を利用してくださるメンバーを増やす仲間づくりに全力をあげて取り組みました。8月度以降の利用者は前年実績を上回り、年間の利用者は前年比100.3%の伸張になりました。

特に個人宅配の伸張は著しく、配達手数料の各種優遇サービスや空配手数料の値下げにより、メンバーにとっては今まで以上に利用しやすい環境が整ったことで、103.1%の伸張、のべ2,281,372人のメンバーに個人宅配をご利用頂いております。

### 1. より利用しやすい個人宅配を実現するために

2008年度の個配事業は、「子育て優遇」、「高齢者優遇」、「障がい者優遇」の3種類の配達手数料優遇サービスを実施し、8,822人のメンバーが各種優遇サービスを申し込んでおり、新しく共同購入に加入されたメンバーの3人に1人が優遇サービスを申し込んでいる状況です。

さらに、2008年6月9日から空配手数料を従来の126円(税込み)から98円(税込み)に値下げし、利用するメンバーがより利用しやすい料金体系に改訂しました。また、一人暮らしの高齢者への個配メールサービスも実施。

安心して利用いただける取り組みの一つとして、配達先でのあんしんカバーサービスを有料で開始し188班の登録となりました。

媒体ではWeekの4月1週号より中国で製造された加工食品の取り扱いを一切中止し、5月4週号より全ての商品に製造国名を表示しました。『東北育ち（東北産原料50%以上で東北内の工場生産品）』の開発と取り扱いの拡大をすすめるとともに、『国

内産食品（国産原料50%以上で国内の工場生産品）』の扱い高を拡大しました。国産原料50%以上の加工食品は、扱い高の35%を占める状況になりました。



東北育ちと原産国表示

### 2. 社会的貢献活動の取り組み

共同購入の事業特性を活かし、県内10支部に11台のAEDを配備し、配達時におけるトラックへのAED搭載を開始しました。AEDは心肺蘇生との併用が有効であることから、支部職員を中心に450名の共同購入職員が普通救命講習の修了証を取得しました。

緊急災害時や配達先における不測の事態に備え、共同購入職員が地域社会に貢献できる取り組みとして、継続的に普通救命の講習会を実施していく計画です。



AEDトラック

# サービス・共済事業について

## サービス事業

サービス事業ではメンバーの生活に密着したサービスを提供しています。

### サービスセンター

1. 生協オリジナル車検は、車検の収益から1台につき100円を「COOP緑の基金」へ寄付させて頂く活動を展開しています。2008年度は、約3,614台のご利用があり、約36万円の寄付を行いました。また、環境にもやさしいリサイクル部品の推奨も行っており、約198件程のご利用がありました。

2. 2008年度、「カーテンホーム21」「ブリヂストンタイヤショップのタイヤ館」「ヨコハマタイヤショップのタイヤガーデン」「カリモク家具」



「クロネコ引越センター」と新しく提携を開始しました。

### 住まいのセンター

住宅の増改築や修繕、水漏れ、鍵トラブルなど緊急対応しています。2008年度は、約2,638件のご利用がありました。

### プリエ案内センター

県内12社の葬儀社と提携し、ご葬儀を年中無休24時間承っています。墓石、仏壇仏具、法要関連お膳等メンバー価格で利用できます。08年度は、約433件の葬儀を施行しました。

### コープトラベル東北

国内・海外の各種旅行をはじめ、全国の温泉旅館の手配等を行っています。登山ツアーは人気で2008年のはべ1,600名が参加しました。



## 共済事業

《たすけあい共済》の加入者が増え保障が充実！！

2008年9月1日より、《たすけあい共済》は女性特定病気の対象範囲が拡大、年齢満期の改定などが行われました。《たすけあい共済》の加入者は158,068名で、共済金の支払は22,984名に114,065万円になりました。

7人に1人が共済金を受けました。加入者を増やすことでよりよい保障内容を実現していきます。(加入者数・お支払数は09年1月20日現在)



### 2008年度はくらしの見直し講演会（鎌田實さん）に応募者4,396名にもなりました

「がんばらない あきらめないなげださない」のテーマで東京エレクトロンホール宮城（旧県民会館）の会場は感動の熱気で一杯になりました。2009年度も鎌田さんを講師としてお迎えます。「幸せさがし」のテーマで仙台サンプラザホールで開催します。



### 第7回折鶴ボランティア感謝の集いを実施

共済金請求書類と一緒に折鶴を送っています。折鶴ボランティアさんとの「感謝の集い」を開催し、150名の方に参加いただきました。在仙の歌声喫茶バラライカのリードでたのしく歌いました。



# 職員の制度・教育

## 処遇制度、教育制度

### 「職員満足 (Employee Satisfaction)」の向上を目指して

社会情勢の急激な変化とともにメンバーの暮らしも日々変化しています。様々なメンバーの満足を職員の仕事を通して今まで以上に実現するために、「職員満足」という視点を大事にした職場風土づくりを進めています。

「専務通信」の毎週発行を通して、「生協が事業や地域社会に対して今取り組んでいること」「目指していること」などを全事業所に広く知らせたり、また、ハラスメントのない職場環境づくりのために「ハラスメント（パワーハラスメント、職場のいじめ）に関する基本方針」を定め全事業所での学習会を開催し、働く職員が持てる力を発揮し生協に働くことに誇りと確信をもち、より働きやすい職場環境づくりをすすめました。

### パート職員と正規職員の「均等待遇」と働きがいを高める取り組み

パート職員は現在のみやぎ生協の事業や運動の中核として大きな役割を果たしています。そのため「パートタイム労働法」が2008年4月に改定施行されましたが、それ以前からパート職員の処遇改善に取り組んできています。

育児・介護休職制度や時短制度などは関係法を上回る制度として均等待遇を実施しています。

また、新しく働きはじめるパート職員に対して、共同購入運営部ではパート職員の採用前段階で実際に働いてからイメージギャップが発生しないように採用や就労方法を改善する取り組みをすすめ、早期退職者が大幅に減少しています。

同様に店舗運営部では、採用後間もないパート職員が職場の中でちょっと困ったことをより相談しやすいように「パートナー制度」の導入を開始しました。

### 職員の健康を守る取り組み

健康と密接に関連する正規職員の長時間労働の削減を進め、またパート職員については残業時間を削減しました。これは、店舗での作業改善や、共同購入での配達車両への積載作業の委託化や配達コースの再編成によるパート職員の年次有給休暇の取得促進などを進め、同時に2008年4月から導入した新しい「勤怠管理システム」を活用しながら各事業部で労働時間の管理がすすんだためです。

また職員の健康管理の強化をすすめ、正規職員やパート職員の健康診断結果をもとに産業医やスタッフによる「健康教室」の開催や個別健康指導を強めたり、全所属長対象に「メンタルヘルスの学習会」を開催するなど職員の健康を守る取り組みをすすめました。

研修名称	対象	
入協前研修	正規全員	新入協者
新人フォロー面談（3回）	正規全員	新入協者
新人フォロー研修1	正規全員	新入協者
新人フォロー研修2	正規全員	新入協者
2・3等級研修	正規全員	昇格者
4・5等級研修	正規全員	昇格者
6等級研修	正規全員	昇格者
幹部養成講座	正規全員	5等級
新任管理者研修	正規全員	新任管理者
安全管理者講習	正規全員	所属長
衛生管理者受験講習会	正規全員	6等級、管理者
MAT適性検査	正規全員	未検査者
通信教育 日生協初級	正規全員	3等級以下
通信教育 日生協中級	正規全員	4等級以下
通信教育 日生協マネジメント	正規全員	5等級以下
日商簿記3級	正規全員	全職員
定年退職事前説明会	正規全員	57歳以上
日生協 ライフビジョンセミナー	正規全員	57歳以上
入協時研修	パート	新入協者 (含嘱託)
エキスパート研修	パート	エキスパート
その他各種通信教育	正・嘱・パート	全員

# お取引先様とのパートナーシップ

## お取引先様との連携強化と公正な取引の徹底を確実に進めています

### 1. 公正な取引の徹底

「公正な取引の徹底」はみやぎ生協の事業活動にとってもっとも重要なものであると同時に、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（独占禁止法）の第19条（不公正な取引方法の禁止）及び、一般指定第14号（優越的地位の濫用）に抵触するような優越的地位の濫用は、決して行いません。

### 2. 方針を聞く会

毎年6月、お取引先様の中から選任された「呼びかけ人」が主催する「みやぎ生協の方針を聞く会」が開催されます。これは、お取引先様にみやぎ生協の新年度の方針をご理解いただき、よりよきパートナーシップを形成していく一助とすることを目的としています。

1982年にみやぎ生協が設立されて以来続けている会で、2008年度の方針を聞く会にはお取引先様約800社、1,200人の参加がありました。また、2008年度は餃子事件に関し、みやぎ生協の再発防止策などを説明させて頂く会を開催し、ご理解を頂きました。



2008年度方針を聞く会



### 3. 店舗・共同購入関係の方針を聞く会

みやぎ生協全体の方針を聞く会に先立って、店舗や共同購入部門ではお取引先様に対し、具体的な事業計画を説明し、また、お取引先様からもご意見やご要望を伺うための会を開催しています。

各部門の事業計画をご理解いただくことで、「お取引先様に信頼されると同時に、公正な取引の徹底につなげること」がこの会の主旨です。

### 4. 提携関係の発展

- (1) 宮城県協同組合こんわ会に参加し、環境保全運動や第一次産業を守る運動に取り組みました。
- (2) 農協主催の原油価格高騰などによる農業危機突破集会に参加しました。
- (3) 森林組合連合会と協力し、「緑と人をつなぐ市民のつどい」を1月に開催、300人が参加しました。
- (4) 日専連と共同で、仙台大崎八幡神社のどんと祭裸参りに昨年に続き参加しました。



裸参り

# 2008年度の事業の決算概要

## みやぎ生協の店舗・共同購入・サービス事業全体の決算状況

供給高は、1,029億円。上期は餃子事件で店舗の利用者数の減少や客単価の下落、共同購入は利用者拡大などの自粛、さらに下期は景気後退などのメンバーの暮らしの厳しさによる節約志向もあいまって、厳しい事業環境となりました。外部環境や共済事業の譲渡などの要因もありますが、結果的に経常剰余金は16億の赤字となりました。

赤字は店舗であり、共同購入事業・サービス事業は予算未達ではありますが、経常剰余金を確保して

います。特に共同購入は下期、前年を上回る供給高を達成しています。

2010年までの第8次中期計画の中、安定した経営の構造改革を目指し、過去の負債や将来のリスクを断ち切り、財務構造の健全化を目的として特別損失を78億円計上しました。

出資金は211億2,300万と前年より2億1,900万増えました。

### 2008年度損益計算書

(自2008年3月21日 至2009年3月20日) (単位:百万円)

項目	実績
供給高	102,989
供給剰余金	25,118
その他事業収入	3,334
事業総剰余金	28,453
事業経費	30,186
人件費	13,870
物件費	16,315
事業剰余金	▲1,733
事業外収益	316
事業外費用	246
経常剰余金	▲1,633
特別利益	817
特別損失	7,837
当期剰余金	▲7,466

(自2008年3月21日 至2009年3月20日) (単位:百万円)

事業部門	実績	前年比
店舗	75,369	101.5%
共同購入	25,679	95.8%
サービス	1,941	93.6%
総供給高	102,989	99.9%

### 2008年度貸借対照表

(2009年3月20日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債・純資産の部	
I 流動資産	13,676	Ⅲ 流動負債	27,401
Ⅱ 固定資産	51,578	Ⅳ 固定負債	14,194
1.有形固定資産	40,289	V 出資金	21,123
2.無形固定資産	1,398	Ⅵ 剰余金	2,536
3.その他の固定資産	9,890		
資産合計	65,255	負債及び純資産合計	65,255

# 組織概要データ

## ★みやぎ生協の組織概要

メンバー（組合員）数	602,920人（前年比102.8%／県内世帯数比67.0%）
出 資 金	211億23百万円（前年比101.1%）
職 員 数	8,139人（正規899人、パート・アルバイト6,994人、嘱託246人）
供 給 高	1,029億9千万円（前年比99.9%／店舗754億円、共同購入257億円、サービス19億円）
主 な 事 業 内 容	生鮮品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業（店舗・共同購入）文化サービス事業・福祉事業
会 社	㈱コープフーズ東北、㈱宮城県学校用品協会、㈱コープトラベル東北、㈱パティオ西多賀、㈱コープ総合サービス、㈱コープエステート
関 連 法 人	社会福祉会法人こ〜ぶ福祉会
主 な 加 盟 団 体	日本生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会 生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合

## ★メンバー（組合員）数、はんメンバー数、はん数の推移

項 目	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
期末メンバー（組合員）数	553,155	571,662	586,536	602,920
年間増加数（人）	20,678	18,507	14,874	16,384
宮城県世帯数比（%）	63.1	64.6	65.7	67.0
期末はんメンバー数	143,363	141,050	138,551	138,265
年間増加数（人）	▲1,877	▲2,313	▲2,499	▲286
宮城県世帯数比（%）	16.3	15.9	15.5	15.4
期末はん数	39,499	39,855	39,957	40,354
年間増加数（はん）	69	356	102	397
1はん平均メンバー数（人）	3.6	3.5	3.5	3.4
宮城県世帯数（3月20日現在）	875,746	884,689	892,571	900,109

## ★こ〜ぶ委員会、メンバーのつどい

	項 目	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
こ〜ぶ委員会	委員会の数	359	358	359	359
	委員人数（人）	3,518	3,429	3,410	3,288
	委員選出率（%）	82.2	80.1	80.3	77.4
こ〜ぶのつどい	初夏の参加人数（人）	12,516	12,612	13,004	12,764
	初夏のはんリーダー出席率（%）	20.3	19.7	19.1	18.6
	秋の参加人数（人）	13,020	13,120	12,351	12,502
	秋のはんリーダー出席率（%）	20.5	20.2	18.0	17.4
は ん 会	初夏のはん会開催率（%）	24.0	23.2	22.2	21.1
	秋のはん会開催率（%）	21.0	21.1	20.5	19.0

## 職員の状況

### みやぎ生活協同組合

区 分	男	女	計又は平均
職 員 数	588人	142人	730人
平 均 年 齢	43.0才	37.1才	41.8才
平 均 勤 続 年 数	19.5年	16.3年	18.9年
パートタイマー・アルバイト人数	855人	5,665人	6,520人
パートタイマー・アルバイト正規換算数	425人	3,044人	3,469人
嘱 託 人 数	80人	75人	111人

（注）パートタイマー・アルバイト正規換算数は月173時間を1人として換算しています。

### 関係団体等 outward 含む全体合計

区 分	男	女	計又は平均
職 員 数	744人	155人	899人
平 均 年 齢	43.7才	37.7才	42.7才
平 均 勤 続 年 数	20.1年	16.8年	19.5年
パートタイマー・アルバイト人数	889人	6,105人	6,994人
パートタイマー・アルバイト正規換算数	445人	3,295人	3,740人
嘱 託 人 数	111人	135人	246人

### 社会貢献支出分野別一覧

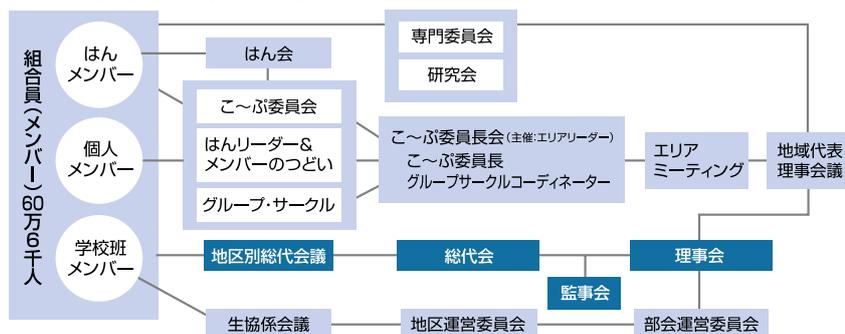
分 野	区 分	金額（円）
福祉	福祉ネットワークへの支出	1,861,630
	こ〜ぶはつとわ〜く基金への寄付	3,627,500
	地域福祉団体への会費や寄付金	229,700
教育・文化・スポーツ	学校への寄付	68,000
	文化関係団体への支出	162,000
	スポーツ団体への支出	143,750
ユニセフ・平和	ユニセフへの支出	4,919,479
	平和活動団体への会費や寄付	33,500
地域社会	町内会などへの会費や寄付、協賛金	1,007,525
	商工会等業界団体への会費や寄付、協賛金	4,564,090
その他	NGO（非政府組織）の支援（事務局人件費、会費、寄付金）	6,451,073
		23,068,247

# みやぎ生協の機関運営と コンプライアンス経営の仕組み

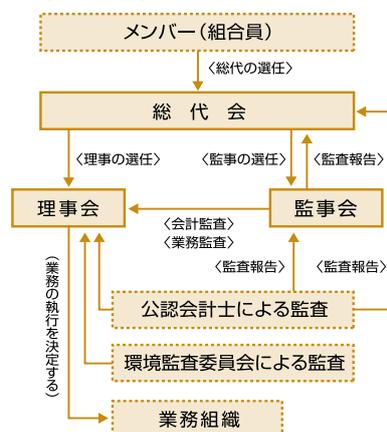
## 1. 外部によるチェック・指導

- (1) 公認会計士（会計処理、財務報告の適正化と監査）
- (2) 顧問弁護士（法務の適正化、訴訟対応、職員からの直接通報の受付）
- (3) 産業医（職場の安全・労働衛生状況に関する調査・指導）
- (4) 監事会（決算、理事の業務執行の監査）
- (5) 環境監査委員会  
（環境活動に対する、学識経験者・メンバー代表・監事による監査）
- (6) 外部環境審査（ISO14001認証機関による審査）
- (7) 宮城県による指導検査（生協法第94条による）

メンバー組織運営図（あらし）



《機関運営》



## 2. 法令遵守・改善制度

職員が法令遵守等に関する声、意見などを直接通報できる制度（2003年9月開始）

第1の通報先・・・「虹の電話」（総務部内に設置）への通報

第2の通報先・・・顧問弁護士に対する通報

- (1) 「声」を寄せた職員の秘密は守られ、また「声」を寄せるにあたって“正当な理由で情報が真実であると信じて”いる限りにおいては、その職員はいかなる不利益も受けることなく保護されます。
- (2) 生協では寄せられた「声」は調査し、匿名以外は申し出た本人に対して必ず調査結果を返します。

## 3. 監事会活動の強化

改正生協法によって監事の権限と独立性が強化されたことに伴い、監事会として活動を活発化しました。

決算や理事の業務執行状況の監査だけでなく、監事自身による事業所の調査や所属長へのヒアリング、理事会前の代表理事との定期協議、他生協のコンプライアンス経営の調査などです。このような監事会活動を支えるため、監事会事務局を新設し職員の配置も行いました。2009年度総代会では、法定員外監事（生協法で選出が義務付けられた監事）を選出し、監事会活動をさらに強めていきます。

## 4. 内部統制構築への準備

改正生協法は、生協の機関運営ルール（ガバナンスに関する規定）を従来の「民法準用」から、「会社法準用」へと大きく方向転換をし、「業務の適正と効率化を確保する体制」を整備することを求めました。

これを受けて日本生協連からは「生協における内部統制システムの構築」が提起され、みやぎ生協でも内部統制システムの体制整備作業をすすめるための準備を開始しました。2010年総代会では、その取組み状況を報告する予定です。

# プレスリリース

みやぎ生協の一年間のプレスリリース（マスコミ向け）は以下の通りです。

（自2008年3月21日 至2009年3月20日）

1	3月31日	地産地消の日	38	9月23日	宮城県生協連：冬の灯油要請行動
2	4月2日	蛇田オープン	39	9月24日	岩手・宮城内陸地震の義援金贈呈
3	4月3日	ユニセフ募金贈呈式	40	9月27日	第29回宮城県生協組合員集会リリース
4	4月4日	宮城県生協連2007年度冬灯油価格決定	41	9月27日	子育て支援講演会開催（こ〜ぶ家庭教育センター）
5	4月9日	全店にて「南国・宮崎フェア」開催	42	10月2日	ユニセフパネル展 中国四川大地震
6	4月11日	社会福祉法人こ〜ぶ福祉会 「こ〜ぶのお家（うち）緑ヶ丘」開所	43	10月10日	手作りおはぎ全店舗にて発売開始
7	4月22日	こ〜ぶの森貞任山 植林体験会	44	10月13日	「石巻蛇田店」にて大産直市開催
8	4月23日	アニマルレスキュー隊員にも協力拡大	45	10月17日	レジ袋有料化新たに仙台市以外2市6町1村で実施
9	5月8日	ミャンマー・サイクロン・ユニセフ緊急募金活動	46	10月20日	盲導犬受け入れセミナー開催（店舗運営部）
10	5月13日	塩釜栄町店オープン	47	10月23日	カーボンオフセット付きバナナ取扱開始（共同購入）
11	5月15日	中国四川大地震災害支援募金活動	48	10月26日	伊藤ハム東京工場製造の商品及び「CO・OP ミニチョコバー生チョコタイプ」に関するお知らせ
12	5月29日	記者レクのお知らせ（知事への意見書： 消費生活センター相談業務委託）	49	10月28日	CO・OPヌードル供給再開
13	5月30日	総代会開催	50	10月28日	宮城県生協連：灯油暫定価格値下げ
14	6月2日	ユニセフのつどい2008inみやぎ 朗読会開催	51	11月7日	消費者庁学習会開催
15	6月5日	みやぎ生協専務理事定例記者懇談会	52	11月13日	宮城県生協連代表団の国会請願
16	6月13日	みやぎ生協の方針を聞く会	53	11月18日	宮城県生協連：灯油暫定価格引下げ（2回目）
17	6月17日	岩手・宮城内陸地震義援金募集	54	11月20日	節約応援 3000品目値下げ
18	6月17日	岩手・宮城内陸地震対応について	55	11月25日	新田東店サンプリングマシン設置
19	6月17日	栗原市へ生活用品、衣料品の義援物資を提供	56	11月28日	2008年度産直交流集会開催
20	6月23日	新寺店オープン	57	11月29日	2008年酸性雨測定の記者報告
21	6月27日	レジ袋有料化実験開始および説明会	58	12月5日	生協プロパンガス値下げ（コープガスセンター）
22	7月4日	セラビ幸町店 7月「はあとまつり」開催	59	12月10日	ユニセフ街頭募金活動
23	7月24日	こ〜ぶの森に木を植えよう(株)ロッテアイス協賛	60	12月15日	梅飴「うめ輝らり」新発売
24	7月25日	ミャンマー サイクロン・中国四川大地震 ユニセフ贈呈式	61	12月16日	宮城県生協連：冬灯油暫定価格値下げ（3回目）
25	7月28日	ユニセフ外国コイン仕分け	62	12月22日	宮城県生協連：岩手・宮城内陸地震義援金二次贈呈
26	7月30日	産直生産者応援の取り組み実施	63	1月27日	レジ袋有料化店舗拡大 マスコミ向け説明会実施
27	8月4日	配達トラックにAED導入（共同購入）	64	1月28日	森づくりシンポジウム開催
28	8月4日	コープポイント：日専連スマイルポイント交換	65	2月2日	ガザ人道支援緊急募金贈呈
29	8月21日	AED導入（14店舗）	66	2月11日	子育て支援教育講演会開催（こ〜ぶ家庭教育センター）
30	8月29日	第5福竜丸学習会開催	67	2月18日	宮城県生協連：冬灯油暫定価格値下げ（4回目）
31	9月1日	宮城県生協連灯油署名の取り組み	68	2月20日	共同購入レンタルモップ取り扱い開始
32	9月3日	こ〜ぶほっとわーく基金上期助成決定	69	2月23日	韓国農水産物物流公社協定書締結
33	9月4日	産直生産者応援の取り組み	70	3月5日	「海青丸」漁獲メカジキ及びメバチまぐろの試験販売
34	9月10日	宮城県生協連：灯油対策本部設置	71	3月7日	ユニセフ写真パネル展開催
35	9月16日	「産直きゅうり巻」販売開始	72	3月10日	「みやぎ環境保全米」スタートイベント開催
36	9月19日	冬灯油暫定価格の記者発表	73	3月12日	こ〜ぶほっとわーく基金下期助成先決定
37	9月23日	こ〜ぶの森に木を植えよう	74	3月17日	「車検でエコ！」キャンペーン実施

# 1年間のマスコミ報道から

(新聞記事はいずれも「河北新報」からの転載です)

## 08年度のマスコミ報道より大きく取り上げられたものを抜粋

2008年10月5日

2008年12月9日

2008年10月1日

### 魚介でも地産地消推進

#### みやぎ生協「直送便」コーナー 拡大も検討

みやぎ生協(仙台市)は地産地消推進の一環として、魚介類の地産地消を推進している。今年10月、同協会の仙台市本部で、魚介類の地産地消を推進する「魚介でも地産地消推進」の取り組みが発表された。同協会は、魚介類の地産地消を推進するため、仙台市本部に「魚介でも地産地消推進」のコーナーを設け、魚介類の地産地消を推進している。また、同協会は、魚介類の地産地消を推進するため、仙台市本部に「魚介でも地産地消推進」のコーナーを設け、魚介類の地産地消を推進している。

### 農商学がタッグ

#### 安全・安心の肉牛生産

#### みやぎ生協 全農宮城 国産飼料使い肥育委託

みやぎ生協(仙台市)は、安全・安心の肉牛生産を推進するため、全農宮城(仙台市)と提携し、国産飼料を使い肥育委託している。また、同協会は、肉牛生産を推進するため、全農宮城と提携し、国産飼料を使い肥育委託している。

### 森と海 交流広がる

#### 「ふれあいの森林づくり」南三陸町が最高賞

#### 植樹、林業体験など評価

南三陸町は、森林づくりの取り組みが評価され、最高賞を受賞した。同町は、森林づくりを推進するため、植樹や林業体験などの取り組みを行っている。また、同町は、森林づくりを推進するため、植樹や林業体験などの取り組みを行っている。

### お魚直送便は 14店舗で実施

みやぎ生協14店舗 AEDを設置へ

みやぎ生協(仙台市)は、お魚直送便を14店舗で実施している。また、同協会は、AEDを設置し、緊急時の対応を迅速に行うことができるようにしている。

### 食卓に「みやぎ」を

#### 地産地消の日開始祝う

みやぎ生協(仙台市)は、食卓に「みやぎ」を推進している。また、同協会は、地産地消の日を開始し、地産地消を推進している。

### 食糧自給率向上を

#### すすめています

みやぎ生協(仙台市)は、食糧自給率向上をすすめている。また、同協会は、食糧自給率向上をすすめている。

2009年2月3日

2008年8月23日

2008年9月3日

### みやぎの生協のレジ袋有料化実施

#### 店舗は35店舗になりました。

みやぎ生協(仙台市)は、レジ袋有料化を実施している。また、同協会は、レジ袋有料化を実施している。

### 配達車にAED搭載

#### みやぎ生協 全支店部で計11台導入

みやぎ生協(仙台市)は、配達車にAEDを搭載している。また、同協会は、配達車にAEDを搭載している。

### 生協連が100万人署名

#### 灯油価格安定化へ連携

みやぎ生協(仙台市)は、生協連が100万人署名を推進している。また、同協会は、生協連が100万人署名を推進している。

# 第5章

## 環境活動

*ピックアップハイライト	50
*環境マネジメントシステム	52
*メンバー活動における環境保全の取り組み	54
*行政や MELON との連携	56
*環境配慮商品の拡大普及	57
*リサイクルセンターの取り組み	58
*温暖化防止自主行動計画	59
*環境管理データ	60
*環境保全に伴う会計や法規制	61
*環境監査・審査報告	62

# ピックアップハイライト

## 1. レジ袋有料化拡大

### (1) 有料化の推移

みやぎ生協は、ゴミの削減のためにレジ袋を削減することは大切なことと考え、1980年代からメンバーの皆さんと一緒に持参運動（マイバッグキャンペーン）をすすめてきております。レジ袋の有料化は、レジ袋の削減に効果が大きく、社会的に問題になっているゴミ問題や石油資源問題を解決してゆく手段として、消費者も事業者も真剣に考えなければならない問題として、住民団体、自治体、小売業者が一緒に取組む仙台方式でレジ袋有料化を拡大し、宮城県内全店舗で実施しました。

- ・2007年6月1日：セラビ幸町店で有料化スタート
- ・2007年10月1日：国見ヶ丘店、南光台店、鶴ヶ谷店の3店舗を拡大
- ・2008年7月1日：太白区の西多賀店、富沢店、柳生店、八木山店の4店舗を拡大
- ・2009年2月2日：仙台市全域の18店舗、みやぎ中央地域（多賀城、塩釜、利府、松島等）9店舗と拡大、現在35店舗で実施
- ・2009年6月1日：県南地区の12店舗に拡大

\*高砂衣料館は、レジ袋有料化実施店からは対象外となっております。

### (2) マイバック持参率とその効果

- ①レジ袋有料化店舗のマイバック持参率は、有料化前の35%から87%と向上しました。
- ②未実施店舗も含め、みやぎ生協全体で58.0%となりました。

店舗名・期間	①期間中レジ袋削減枚数	②原油換算(ℓ)	③CO <sub>2</sub> 換算(kg)	④レジ袋ゴミ換算重量(kg)	⑤緑の基金(円)
全店合計	34,383,000	474,500	825,200	195,000	990,939

③マイバックの持参による効果は以下の通りです。。

- ・レジ袋195t/年削減は、仙台市340世帯のゴミ1年分になります（1世帯のゴミ0.573t/年（07年度）
- ・CO<sub>2</sub>排出825.2tの削減は、サッカーボールで8,252万個分になります。  
（CO<sub>2</sub>1kgはサッカーボール100個分）
- ・レジ袋の原料として原油474.5kℓの削減は、500mℓのペットボトルに換算して949,000本分の削減になります。

## 2. リサイクルセンターで生産した野菜を販売しました。

07年度にみやぎ生協のリサイクルセンターで堆肥化実験を行ってきた堆肥を、08年度から宮城県エコファーマー第1号である田尻の佐々木陽悦氏の畑へ試験提供しました。

その堆肥を使用して生産されたトマト2,450kg（4月～7月）、ミニトマト3,200パック、ナス7,650kg（5月～9月）を、みやぎ生協の古川南店、高森店、明石台店、桜ヶ丘店、利府店に出荷し、店舗の旬菜市場で販売しました。



みやぎレジ袋使用削減取組協定締結式



レジ袋有料化店舗



旬菜市場

## “こ～ぷの森”づくりがひろがりました

### 1. 新しい“こ～ぷの森”「貞任山（さだとうやま）」へ植林しました

アルミ缶の売却益やメンバーからの募金で作っている“こ～ぷの森”。2008年度は新しい“こ～ぷの森貞任山”（南三陸町志津川）にクリ、コナラ、ヤマザクラなどの多種類の広葉樹を植林しました。県内5箇所のこ～ぷの森の総面積は16.61ha、植栽本数は37,839本になりました。貞任山は、みやぎ生協産直志津川湾産生力キのふるさと志津川湾を望む高台にあります。降った雨は山の養分を含んで湾へと運ばれ、産直生力キを育みます。4月26日（土）に行った植林体験会は、南三陸町、宮城県漁業協同組合志津川支所、南三陸町森林組合、みやぎ生協の協同の取り組みとして開催し、130名の参加のもとで、山と海、消費者と生産者のつながりを知る機会になりました。



「こ～ぷの森貞任山」植林体験会

### 2. 森を育てる体験会を行いました

こ～ぷの森を舞台に自然観察会やツル切り・下草刈などの体験会を開催し、のべ50人が参加しました。



「こ～ぷの森立神山」下草刈体験会

### 3. こ～ぷの森への支援が広がりました

昨年度もご支援をいただいたキリンビバレッジ様（ペコロジーボトルキャンペーン）に加え、ロッテアイス様（アイス・クーリッシュキャンペーン）との共同キャンペーンによる募金が寄せられました。さらに、みやぎ生協オリジナル車検の提携工場様から、車検1台につき100円の募金も始まり36万円の募金をお寄せいただき、お取引様からのご支援が広がりました。



キリンビバレッジ様からの募金贈呈式



生協車検提携工場のみなさん

### 4. 森をテーマにシンポジウムを開催しました

こ～ぷの森の活動をお知らせし、これからの森づくりについて考えていくためのシンポジウム「森と人をつなぐ市民のつどい～“こ～ぷの森”づくりから見えてきたもの～」を1月31日（土）に、せんだいメディアテークで開催し、300人余りの方が会場を訪れました。また、当日は「こ～ぷの森づくり」を多くの方に知ってもらうために作成し、完成したばかりのビデオも上映しました。シンポジウムへの参加や展示コーナーでの体験を通じて、こ～ぷの森への理解がすすみました。



森と人をつなぐ市民のつどい

# 環境マネジメントシステム

## 環境理念・環境方針

### 環境理念

みやぎ生協は、メンバー（生協組合員）と職員の活動や事業における取組みを通して環境負荷の低減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献します。私たち自身のライフスタイルを見直すとともに、生産から流通・消費・廃棄までの製品のライフサイクルの各段階における環境負荷の低減をすすめ、社会的システムづくりへの提言などをおこない、もって持続可能な環境保全型の社会実現に寄与します。

### 環境方針

1. みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、事業活動、商品、サービスが環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を設定し、定期的に見直すことによって環境マネジメントシステムとパフォーマンスの継続的な改善・向上を図ります。
2. みやぎ生協は、環境関連の法律、規制、条例及びその他の受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守するとともに、必要に応じて自主基準を制定し管理を進めます。
3. 環境汚染の予防に努めると共に、みやぎ生協の事業活動及び商品、サービスの環境に与える著しい影響を特定し、以下の課題を中心に環境保全活動を行います。
  - (1) 低炭素社会構築に向けて「みやぎ生協温暖化防止自主行動計画」を制定し、CO<sub>2</sub> 排出削減につながる諸施策を進めるとともに、CO<sub>2</sub> 総量での削減を検討します。
  - (2) 循環型社会構築に向けて、一般廃棄物の削減のためにごみの削減につながる商品の値引き廃棄口の削減や廃棄物自己処理システム（リサイクルセンター）により、廃棄物の再資源化と食品リサイクル率の向上を図るとともに、レジ袋と商品の容器包装の削減を進めます。
  - (3) メンバーと共に環境に関する学習の普及啓発や、生物多様性を含めた環境保全活動を深めます。
4. 定型教育、部内報、事業所毎の会議等により、職員に対する教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

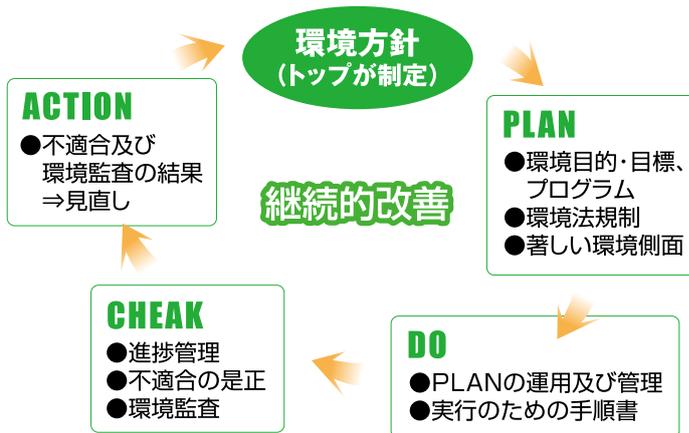
この環境方針は、生協内外に公表します。

改定日 2009年5月  
みやぎ生活協同組合  
専務理事 宮本 弘

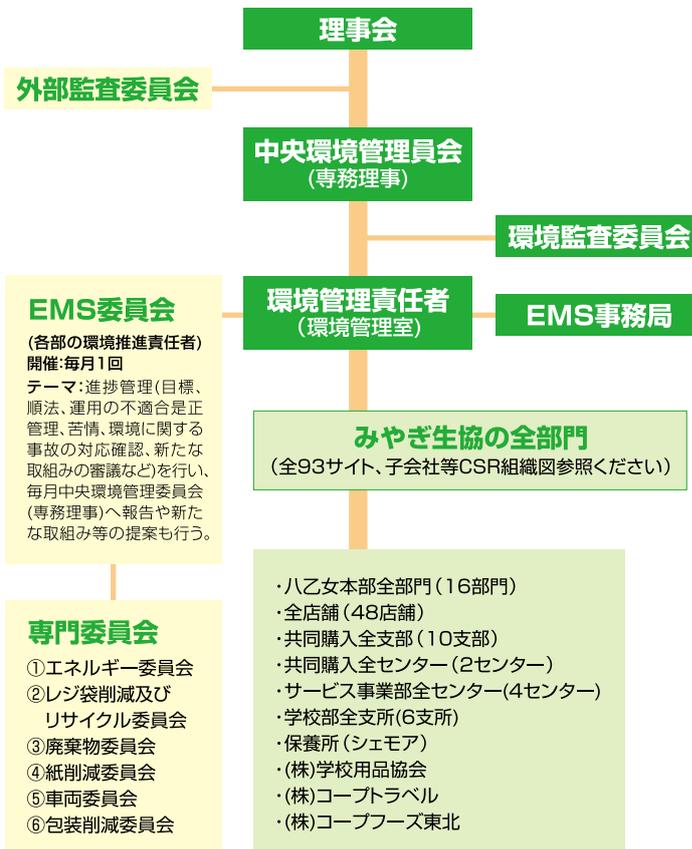
## 環境マネジメントシステムの推進と活動の歩み

### 環境マネジメントシステムの推進 (PDCAサイクル)

1998年度にISO14001認証を取得して以来、PDCAサイクルに基づくEMS(環境マネジメントシステム)を構築して運用しています。



### 環境管理体制



### みやぎ生協の環境活動の歩み

#### 2008年度の主な活動

- ・レジ袋有料化を47店舗中35店舗まで拡大
- ・共同購入車両にBDF車を4台走行
- ・カーボンオフセット商品 ecoバナナ、飲料自販機、アイス、エコ車検の売上金の一部を「こ～ぶの森」への植林に募金
- ・ISO14001の2年次サーベイランス(11年目)

2007年	レジ袋有料化実験開始。メンバーに「電気ダイエット」を広め環境省の「一村一品・知恵の環作り」県大会で入賞。共同購入車両にBDFを利用。「こ～ぶの森」支援自販機を開始、募金。省エネ対策として「見えタロー」の導入。ISO14001の1年次サーベイランス(10年目)
2006年	共同購入にディーゼルハイブリッド車を新たに5台導入。仙台市グリーンペーパー登録店に登録。肉端材の再資源化開始(23店舗)。リサイクルセンターの稼働。省エネ対策としてESCO事業の導入。ISO14001の3回目の更新。粗大ゴミの硬質プラ、スチールを再資源化開始。レジ袋有料実験の公表。
2005年	廃食油の一部をBDF燃料へ再資源化。仙台市エコニコ事業所に全事業所登録。
2004年	温暖化防止自主行動計画を策定。レシート記録紙の再資源化を開始。マイバッグ持参デーの開始。
2003年	非発泡スチロールトレーの回収を開始。仙台市の紙回収庫の設置協力を開始。
2002年	廃プラスチックの再資源化を開始。
2001年	店舗魚腸骨を自販機紙コップの再資源化とたまたまバック回収を開始。
1999年	共同購入のチラシ回収を開始。マイバスケットを導入開始。
1998年	ISO14001認証取得し、みやぎ生協の環境活動を総合的に推進。ペットボトルの回収を開始。
1995年	LPG車の導入を開始。環境報告書を作成し公表。
1994年	コピー紙などの再資源化を開始。廃職油の再資源化。
1993年	ニカド電池&ボタン電池、クリーニングハンガーの回収再利用を開始。みやぎ環境とくらしネットワーク(MELON)設立。
1992年	アルミ缶の回収を開始。発泡スチロールトレーの回収を開始。二酸化窒素の県内調査と水辺の観察測定活動を始め。「こ～ぶの森」(植林活動)の取り組みを開始。
1991年	酸性雨の県内調査を開始。「COOP 緑の基金」設立。
1990年	レジ袋節約スタンプの取り組みを開始。牛乳バック回収を開始。

# メンバー活動における環境保全の取り組み

## リサイクル活動や買い物袋持参の取り組み

### 1. メンバーによる環境保全活動

みやぎ生協は1990年度から牛乳パック回収、1991年度から酸性雨一斉測定、1992年度から水辺の観察と水質測定、“こ〜ぶの森”づくりなどを開始し、メンバーとともに環境問題と私たちのくらしの関わりについて学習し、環境保全の活動を継続して行っています。

### 2. リサイクル活動とレジ袋削減

みやぎ生協が取り組んでいるリサイクル活動への参加を拡げ、家庭からのごみ削減に取り組みました。トレー回収についてのチラシを作成し、環境デーの取り組みで活用したり、店舗に拡大コピーして掲示するなどトレー回収への理解を深めました。

7月1日から始まった太白区内4店舗でのレジ袋有料化実験開始、2009年2月2日からの仙台市内全店、みやぎ中央地域9店舗の有料化開始に向け、お知らせ活動をメンバーと事業が一体になって行いました。全店でのレジ袋削減率も2007年末には52.7%が2008年末には70.4%になり、レジ袋削減が大きくすすみました。



八木山店でのお知らせ活動

## 環境活動への参加を広げて「くらしの見直し」

みやぎ生協温暖化防止自主行動計画「省エネエイト」を様々な場面で普及しました。

### 1. 「1日エコライフ」

みやぎ生協がすすめている「省エネエイト」の実践版として、温暖化効果ガス削減を目的に10のエコライフ項目を行う「1日エコライフ」を、メンバーと職員に呼びかけ、6月～7月にかけて実施しました。1,770世帯5,795人が参加し、この取組でのCO2削減量は約4.8tになりました。

また、継続してエコライフに取り組んでいくために「くらしの中からストップ温暖化～環境学習会～」を10月27日（月）に生協文化会館ウイズで開催しました。盛朋子さん（宮城テレビアナウンサー）を講師に迎え、140人が参加しました。



「くらしの中からストップ温暖化！」学習会

### 2. 電気ダイエット

「省エネエイト」の実践として家庭の節電に取り組みました。「電気使用量のお知らせ」に記載されている前年度の使用量と今年度の使用量を比較し、どの位ダイエット（節電）できたか比べます。参加者は「電気ダイエットのヒント」を参考に節電に取り組みました。2008年度は10月度の1ヶ月間と1月～12月の1年間の2通のメニューに取り組みました。

10月度1ヶ月間の取り組みには1,678世帯が参加し、ダイエットに成功した世帯は909世帯（54.2%）、削減電気使用量は26,169kwh、CO2排出削減量は10,729.3kg（CO2排出係数を0.410kg/kwhとして算出）になりました。1年間の取り組みには186世帯が参加し、削減電気使用量は3,143kwhになりました。

### 3. 測定活動

酸性雨測定（6/11～7/10）には2,139地点（昨年2,537地点）で、水辺の観察と水質測定（7/20～8/21）には943人の参加（昨年664人）、123地点で測定が行われました。安全な水辺の楽しみ方や水質測定の仕方を学ぶ観察会を2回開催しました。

「定義・ホタル観察会」には26人の参加、「蛇石せせらぎ公園観察会」には21人の参加があり、ホタルの生態やダム の現状などを学習し、水環境を考えるきっかけになりました。



水辺の観察会 蛇石せせらぎ公園

### 4. 環境学習

7月26日に文化会館ウイズで「親子環境学習～酸性雨ってどんな雨～」を開催し、27人が参加して酸性雨の原因や影響について実験などを交えて学習しました。

講師に北條祥子尚絅学院大学教授を迎え、尚絅学院大学生活環境学科の学生7人が実験のサポートを行い、環境学習の実践の場としての協同の取り組みになりました。



「酸性雨ってどんな雨」学習会

「わいわいの素」などで活動テーマの発信を行い、こ〜ぷ委員会など47箇所（昨年49箇所）で、のべ884人を対象に学習会が開催されました。

10月から開始された仙台市ゴミ回収有料化に伴い「ごみ減量」をテーマにした学習会が24会場で、6月・7月に行った「1日エコライフ」をテーマにした学習会が11会場で開催されました。みやぎ生協環境研究会を中心に講師活動を行い、メンバー同士の教えあい学びあいをすすめました。



「ごみ減量」にていての学習会

小中学校の総合学習として「地球温暖化」や「リサイクルの取り組み」のテーマで3校から講師依頼がありました。また社会学級や市民センターからは「ごみ減量」等のテーマで依頼があり、講師を派遣しました。

環境ふれんずニュースをメンバーによる編集委員会で、「CO<sub>2</sub>ダイエット」や「省エネの工夫」、「レジ袋削減」等をテーマに年間3回発行しました。

# 行政や MELON との連携

## 行政や MELON を中心とする環境諸団体とのパートナーシップ



仙台エコフェスタ 2008

1. 行政が取り組む環境行事等へ実行委員として参加するなど積極的に関与しました。仙台市「エコフェスタ2008」(9月7日:勾当台公園市民広場)、「環境フォーラムせんだい2008」(12月7日:せんだいメディアテーク)、石巻市、気仙沼市、柴田町、加美町、利府町などの地域で行政や市民団体と協同で環境の取り組みを行いました。



仙台環境フォーラム 2008

2. 仙台市「杜々環境レスキュー隊(環境学習プログラム)」で、みやぎ生協「街かど環境ウォッチング 酸性雨編」を6月25日に仙台市立片平小学校4年生61名、7月14日に仙台市立松陵小学校6年生7名を対象に実施しました。

3. (財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)への支援と協同の取り組みをすすめました。

MELON 環境市民講座「洞爺湖サミットに届け、おおさきサミット」を地域のメンバーに呼びかけ、5月31日に古川南店集会室で開催し、60人の参加がありました。



MELON 環境市民講座 おおさきサミット

4. MELON や宮城県地球温暖化防止活動推進員と環境学習実践のための情報交換を行いました。

また、地球温暖化の原因や現状についての学習で講師を派遣、省エネの普及活動で連携を深めました。

# 環境配慮商品の拡大普及

## 商品を通して自然と環境への配慮

みやぎ生協は「環境配慮商品基準」を作成し、商品の開発、利用・普及を通して、環境負荷低減、省エネ・省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献できる商品を環境配慮商品として、取り扱いを拡大することに継続して取り組んでいます。

### 環境配慮商品基準「4つの視点」

1. 化学物質による環境汚染の低減をはかる商品
2. 廃棄物の削減につながる商品
3. 省エネ、省資源、枯渇資源の保護につながる商品
4. 水環境の保全につながる商品



環境配慮商品

### 08年度の特徴的な取り組み

- ①店舗の産直コーナー「旬菜市场」に産直の取り組みを紹介するDVDを新たに9店舗に設置しました。新規に作成した10種類のPOPと合わせてお知らせが進んでいます。
- ②新規産直の大分県産養殖ぶりは大きく供給を伸ばし、産直全体の数値を底上げしました。
- ③加工食品の環境配慮商品は208品目で前年から10品目増やすことができました。新商品の詰替え商品・有機商品が増え、全体の実績増になりました。
- ④COOPレンジ&食品ラップは商品特徴POPを詳しくお知らせすることで供給個数は前年比105%と伸びています。

### 環境配慮商品の供給実績

08年度商品供給高を伸ばす取り組み

部門	商品供給金額	前年比 (%)
デ イ リ ー	84,416 万円	104.2%
果 物 産 直	21,054 万円	99.6%
野 菜 産 直	83,078 万円	104.0%
水 産 産 直	49,453 万円	107.8%
畜 産 産 直	13,820 万円	104.4%

08年度商品供給数を伸ばす取り組み

部門	商品供給数	前年比 (%)
加 工 食 品	993,649 個	119.8%
生 活 関 連	4,033,032 個	106.8%

### 環境に配慮した地産地消の取り組み

「食の安全」や「地域の食文化、農業・漁業文化」を守ることと合わせ、環境面ではフードマイレージの視点（生産地と消費地が遠くなると輸送エネルギーがより多く必要）や環境への負荷が少ない持続可能型の農・水・畜産業の推進をめざし地産地消の取り組みを進めています。

産直商品の普及とともに、産直商品の良さと産地の自然環境を知っていただく「産直学習塾」を開催し08年度は約700名のメンバーが参加しました。

### 「産直学習塾」を開催した産直商品

いちご・梨	若鶏
トマト・各種野菜	豚肉
銀鮭・うなぎ	大沼牛
わかめ・カキ	牛乳「鳴子・角田」
ぶり	卵・蔵王卵
大豆・納豆	ふるさと米

# リサイクルセンターの取り組み

## 「みやぎ生協リサイクルセンター」の取り組みと再資源化など

「みやぎ生協リサイクルセンター（以下、RC）」が、本稼動して2年を経過しました。RCを設置した目的は、店舗・支部・本部から出る廃棄物を自ら収集、分別、再資源化又は廃棄物の抑制などを行うことにより、みやぎ生協の事業から発生する環境負荷を低減することです。本システムは、小売業チェーンが自前でリサイクルに取り組むのは全国でも初めてのことで

### 1. 野菜果物くずの再資源化

- (1) 野菜果物くずの回収強化を図る為、各店の農産部門に分別排出の呼びかけを行い、08年度の回収量は807t（前年601t）と前年比134%の回収量になりました。
- (2) 堆肥の生産ですが、夏場は含水率が高くなかなか発酵が進まない状態でした。9月に種菌を追加し攪拌と切り返しのローテーション調整やバックブレンダー（戻し堆肥）の量調整など実験を行いながら生産を行い、堆肥の生産量は168tになりました。
- (3) たじりエコベジタブルで堆肥を実験使用し、生産されたミニトマト・トマト・ナスをみやぎ生協5店舗の旬菜市場で販売しました。また、田んぼにも実験使用し生産されたお米の試食会を行い、本部職員に限定販売を行いました。（生産量が少なく、本部職員への限定販売としました）
- (4) JAみどりの「田尻産直委員会」・たじりエコベジタブルと堆肥の売買契約を結びました。
- (5) 田尻産直委員会で産直米の田んぼの一部に堆肥を使用していただきました。

### 2. その他

各事業所から排出される粗大ごみの内、RCで手作業により金属、プラ、混在と分け、量は少ないのですが金属くず（什器の棚、傘の柄など）を有価物として再資源化できるように改善を図りました。

## 08年度の再資源化量

RCで回収し有価物処理又は産廃処理物の内訳

種類（再資源化の内容）	処理量	備考
ダンボール（古紙）	6,148.5t	有価物
チラシ（古紙）	3,428.2t	有価物
模造・雑誌（古紙）	216.1t	有価物
牛乳パック（コアノンロール）	202.8t	有価物
発泡スチロール（プラ原料）	204.0t	有価物
魚腸骨（飼料・肥料）	410.0t	有価物
卵パック（PET原料）	9.9t	無料
野菜・果物くず	807.3t	堆肥製造
廃プラ（固形燃料）	190.0t	産廃（高炉還元剤）
鉄くず	7.9t	有価物
廃蛍光管	4.6t	産廃（原料化）
金属・ガラス・硬質プラ・木くず等	7.8t	産廃

RC以外で回収し有価物処理（参考）

種類	処理量	備考
肉端材	165t	有価物
ビン	28.8t	有価物
アルミ缶	51.1t	有価物
スチール缶	49.2t	有価物
PET	63.0t	有価物

RC視察受入状況 08年度（08年4月度～09年3月度）

団体名	視察件数	視察人数
みやぎ生協各委員会	13件	259名
各行政	14件	16名
他企業	11件	33名
学校関係	2件	119名
他生協	4件	16名
合計	44件	443名

## みやぎ生協リサイクルシステムの全体フロー



# 温暖化防止自主行動計画

## 低炭素社会づくりに向けたみやぎ生協の取り組み

店舗や事業所での電気やガスなどの使用、共同購入の配送や物流での燃料使用など事業活動に伴ったエネルギー使用により二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を排出しています。

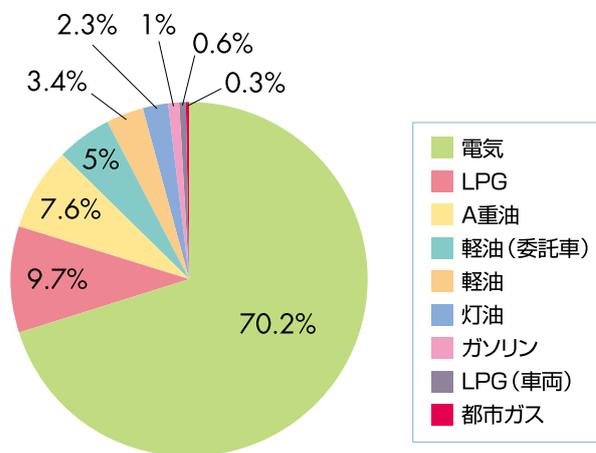
みやぎ生協では低炭素社会づくりに向けたCO<sub>2</sub>削減のための自主行動計画を策定し、「省エネ設備の導入などのハード面」「エネルギー使用の無駄を減らすソフト面」「暮らしを見直す省エネエイト」等を行ない、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

- 08年度CO<sub>2</sub>排出量総量は07年度43,396tから43,710tと前年比100.9%でした。
- 08年度の新店を除く既存店と各施設のCO<sub>2</sub>排出量は前年比96.8%と削減されました。07年度42,767t、08年度41,396t(前年比96.8%)でした。店舗の省エネ対策として電気使用量を管理するための監視機器を36店舗に設置すると共に電気使用の無駄を減らす取り組みを個店毎に徹底しました。この結果8月度以降の電気使用量は既存店で07年度比95.0%に削減しました。
- 08年度の取り組みの中で削減したCO<sub>2</sub>は2,223tでした。
  - 既存店の省エネ管理を進め、主に電気使用量の削減で1,371t
  - 共同購入の低燃費車入替とBDF（バイオディーゼル）燃料への切替えて27t
  - レジ袋の無償配布中止によるレジ袋の削減で825t
 ※施設面では、24店舗のESCO事業を継続する一方、新店にも省エネ機器等を積極的に導入しました。  
 新店3店舗に導入した省エネ設備は、従来設備との比較で198tのCO<sub>2</sub>が削減されました。

(08年度CO<sub>2</sub>排出量と構成比)

項目	CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	前年比 (%)	構成比 (%)
電 気	30,698	102.0	70.2
L P G	4,220	92.9	9.7
A 重 油	3,314	102.7	7.6
軽油(委託車)	2,192	104.9	5.0
軽 油	1,486	96.5	3.4
灯 油	992	88.5	2.3
ガ ソ リ ン	423	117.0	1.0
L P G (車両)	255	90.8	0.6
都 市 ガ ス	131	96.5	0.3
計	43,710	100.9	100
供給あたりの排出量/億円	43.4	100.9	

(使用エネルギーの構成比)



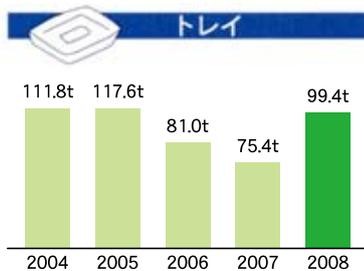
### その他の取組みについて

- 共同購入では、店舗から回収した廃食油を精製し燃料化したBDF（バイオディーゼル燃料）で走行する車両を07年度は、1台実験運行、08年度は燃料供給事業者を増やし、2支部5台で運行しています。
- レジ袋の無償配布中止により、47店舗中35店舗を有料化し、実施店の持参率は87%、全店舗の持参率は07年度46.9%から58.0%になりました。
- 一ヶ月電気ダイエットを08年度も実施、年間でも取り組みました。
- メンバーと職員が参加した1日エコライフに5,774人が参加し約4.8tのCO<sub>2</sub>削減ができました。
- 事業所内の「クールビズ」を6月1日～9月30日、「ウォームビズ」を11月1日～3月31日の期間取り組みました。

# 環境管理データ

## データで見る再資源化の推移

### メンバー・事業による再資源化（回収量）



### 事業での分別による再資源率 77.1%（前年より2ポイント向上しました）

#### ■大気及び河川への排出

事実上排出される CO<sub>2</sub>……43,716t（委託車両含む）  
 BOD 排出量（コープフーズ東北）………0.7t

#### ■廃棄物

廃棄物の排出量（再資源化以外）………4,803t  
 廃家電品排出量………1,562t

### 事業から発生する排出量を分別再資源化した量：16,203.3t

項目	回収量	再資源内容
紙	1,618t	古紙に再生
ビン・缶	129t	アルミ缶は緑の基金、スチール缶・ビンはそれぞれ再資源化
発泡スチロール	265t	再生プラスチック
ダンボール	7,371t	古紙に再生
食用廃油	315t	インク・ペットフード・飼料原料
おから	1,329t	家畜飼料

項目	回収量	再資源内容
魚腸骨	410t	家畜飼料・肥料
牛脂	165t	サラミ・抽
揚げロス	35t	家畜飼料
廃プラスチック	190t	高炉還元剤
蛍光管	141t	原料化
野菜・果物クズ	807.3t	堆肥化
チラシ	3,428t	古紙の再生

# 環境保全に伴う会計や法規制

## 環境会計、法規制、苦情、コミュニケーション

### 環境会計

#### 環境保全コスト

単位：万円（千円以下切捨て）

事業エリア内コスト：生協が直接影響を及ぼせる範囲内で環境負荷を低減させる取組み			投資額			費用額		
分類	主な取組みの内容		08年度	07年度	06年度	08年度	07年度	06年度
内訳	-1 公害防止コスト	大気・水質・土壌汚染防止のための保守点検費	420	415	470	6,249	6,063	5,416
	-2 地球環境保全コスト	調光システムの導入やコーゼレーション機器等の減価償却費	8,294	13,785	45,558	6,144	13,119	10,884
	-3 資源循環コスト	廃棄物の処理、廃プラ、廃食油、生ごみの再資源化費	670	0	0	21,738	20,130	23,697
上・下流コスト	グリーン購入や環境配慮商品の供給促進費		0	0	0	2,773	7,488	7,483
管理活動コスト	ISO 審査、事業所緑化費等		1,938	0	471	789	721	783
調査研究活動コスト	産消提携推進協議会等		0	0	0	64	145	142
社会活動コスト	組合員の環境活動支援、NPO 等への寄付		0	0	0	1,862	1,166	1,467
環境損傷コスト	ホームタンク漏洩回収費		0	0	0	0	31	0
計			11,322	14,200	46,694	39,619	48,864	49,872

#### 環境保全対策に伴う経済効果

単位：万円（千円以下切捨て）

効果の内容		08年度	07年度	06年度
収益	リサイクルによる有価物の売却収入（アルミ缶、紙パック、チラシ、ダンボール、牛脂、魚）	18,586	13,031	7,399
経費節減-1	マイバック運動によるレジ袋代金	6,484	5,058	3,977
	省エネ、省資源による経費の削減	1,238	1,802	1,455
	発生抑制又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	1,091	3,011	4,957
	コピーカウント削減	654	223	630
	計	28,053	23,125	18,418
経費削減-2	値引き廃棄ロス削減（店舗運営本部）	5,100	2,475	27,800
	〃（共同購入商品本部）	0	4,054	-1,110
計		5,100	6,529	26,690

\* 仙台市一般廃棄物処理費：25,500円/t、レジ袋1.5円/枚、コピーカウント3.5円/枚（用紙代含まず）で算出

#### 環境保全効果（エネルギー使用量や廃棄物量の削減効果）

①環境保全効果を表す指標 （みやぎ生協の全事業所で職員、パート、アルバイトが取り組んだ効果）			実績値			08年度の取組みの効果【07年度差】 （ ）は環境負荷増	
			08年度	07年度	06年度		
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	電気	万kwh	7,981	61.4	7,658	(200万kwhの増加)：ESCO事業等の省エネ機器導入や自主行動計画の取組み等
		都市ガス	km <sup>3</sup>	62.0	731	66.2	(0.6km <sup>3</sup> の増加)：自主行動計画の取組
		LPG	km <sup>3</sup>	697	1,250	787	34km <sup>3</sup> の減少：〃
		重油	千kg	1,223	450	1,226	27千kgの減少：〃
		灯油	千kg	398	158	512	52千kgの減少：〃
		ガソリン車両	千kg	184	587	135	(26千kgの増加)：〃
		軽油車両	千kg	570	167	650	17千kgの減少：〃
		LPG車両	千kg	152	498	201	15千kgの減少：〃
		水	km <sup>3</sup>	489	43,396	485	9km <sup>3</sup> の減少：〃
			エネルギー消費によるCO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	43,710	1.1	42,533
事業活動から排出環境負荷及び廃棄物に関する効果	水域土壌への排出	BOD排出量	t	0.7	4,966	0.7	0.4tの減少：CFT除害施設の委託管理
	廃棄物等の排出	一般廃棄物量	t	4,803	14,974	5,376	163tの減少：リサくるセンターの稼働等
	廃棄物リサイクル量	再資源化量	t	16,203	14,974	12,830	1,229tの増加：再資源化総量

### 法規制、苦情、コミュニケーション

- 環境に関する法規制の遵守状況
  - ①環境に関する法規制は、24項目あり順守事項の逸脱はありませんでした。
- 環境に関する苦情は、1件でした。
  - 店舗のテナント様の改装工事が夜間に行われた際の工事車両の出入り音で近隣の方から苦情が寄せられました。
  - ⇒テナント様へ深夜工事を行わないように対処しました。

○環境に関するご意見59件でした。

主な意見・事例報告など	件数
レジ袋有料化関連及びマイバックなど	16件
再資源化（現在回収していない物の回収希望など）	33件
環境配慮商品、ゴミ、フードマイレージ等	10件

- 想定した環境に関する事故緊急時の発生は、ありませんでした。
- 想定外の事故は、ありませんでした。

# 環境監査・審査報告

## 外部監査、ISO審査、内部監査

### 外部監査

みやぎ生活協同組合  
理事長 芳賀 唯史 様

環境監査委員会  
委員長 高橋 春男  
委員 門田 陽子 庄子 都 佐藤 妙子 鈴木 敏央  
高橋礼二郎 豊島 義一 北條 祥子 大和きよ子

当委員会は、みやぎ生協環境管理規程第14条、同環境監査規程第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

#### 【環境監査の実施日】

2008年11月15日 2008年度上期の環境監査（書類監査、八木山店の現地監査）

2009年4月18日 2009年度の環境監査（書類監査および総合監査）

#### 環境監査報告書

みやぎ生協とメンバーの環境保全活動について、取組みが前進したこと、及び以下のことは特に評価できる。

1. 新しい環境方針として「低炭素社会の構築に向けて」「循環型社会の構築に向けて」「メンバーとともに」の重点3課題を掲げ、取組んだこと。
2. レジ袋削減のためにレジ袋の有料化実施を35店舗に拡大し、実施店舗のマイバッグ持参率を87%に高めたこと。および今年中に県内全店舗でレジ袋有料化を実施すること。
3. みやぎ生協リサイクルセンターの稼働率を高め、生産した堆肥でミニトマトなどを栽培し、旬菜市場で供給したこと。および09年1月から堆肥を商品として販売開始したこと。
4. 事業所から発生する一般廃棄物量を目標値50tに対して113tと大幅に削減したこと。
5. 共同購入車両のBDF燃料への変更や、省エネ管理推進ソフト（見えタロー等）の活用によって店舗の電気使用量を5%削減する等して省エネを徹底し、CO<sub>2</sub>削減に努めたこと。
6. 産直商品の供給高を高めることにより地産地消を推進し、またカーボンオフセット付き商品であるエコバナナ等の供給を開始したこと。
7. 「一日エコライフ」や「電気ダイエット（年間・月間）」に取り組むことにより、メンバーの省エネへの関心を高めたこと。
8. レジ袋有料化の収益やエコ車検の一部等を「緑の基金」へ募金すると共に、シンポジウムの開催を通して「こ〜ぷの森づくり」への理解を深めたこと。
9. みやぎ生協が植林を行なうことによるCO<sub>2</sub>削減効果を計るために、森林の年間CO<sub>2</sub>吸収量を定量的に評価する方法の検討を開始したこと。
10. ISO14001の審査で、連続8年間「向上」の評価を得ていること。

#### 指摘事項

1. 環境方針に掲げた「低炭素社会の構築に向けて」「循環型社会の構築に向けて」と、環境理念に掲げている「持続可能な環境保全型社会」との関連性を明確にし、環境方針と環境目的・目標との整合性を図ること。
2. 低炭素社会構築のために、みやぎ生協のCO<sub>2</sub>削減目標を原単位に加え総量の削減も検討し、排出量取引の検討やカーボンオフセット付き商品の拡大をはかること。
3. カーボンフットプリント（商品の生産から廃棄までに排出されるCO<sub>2</sub>量の表示）が表示されたCO・OP商品を拡大するように検討すること。
4. 循環型社会構築のイメージを高めるために、「事業活動と環境のかかわり（環境報告書）」の概念図にインプット・アウトプットだけではなく、その間に「循環」をわかりやすく表示すること。

### ISO審査

**実施日** 2008年10月7日～10月9日 3日間  
**審査員** 3名（日本環境認証機構）  
**審査結果** EMSマネジメントシステムの総合評価は「向上」  
**所見** 「組織の環境マネジメントシステムが継続的に維持改善されていることを確認した。新規開設の3店舗も適切に運用が開始されている。」不適合1件、改善要項2件

### 内部監査

**実施日** 2008年8月1日～10月3日  
**審査員** 36名監査18チーム(2人)  
**監査所見** 総数51件、重大0件、軽3件、観察48件  
**監査結果** 環境マネジメントシステムがISO14001の規格の要求事項に適合して構築され、適切に実施、維持され適合している。  
**その他** 内部環境監査員セミナーを開催し、新たに3名養成した。

## 編集後記

今年も社会・事業・環境活動についての報告書 CSR レポート 2009 を発行することができました。ご協力いただいた関係各位に感謝いたします。

社会的に「CSR 経営」の重要性が認識され、みやぎ生協でも、2006 年からみやぎ生活協同組合の「社会」「経済」「環境」の各分野の取り組みを総合的に公表する報告書の作成をスタートし、4年目となりました。

報告書の発行を通して、さまざまなステークホルダー\*の皆様とコミュニケーションを図ることができましたら幸いです。

なお、アンケートも添えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

\*ステークホルダー：メンバー、取引先などの利害関係者のこと

総務部機関運営課

### ■対象読者

メンバー（組合員）、お取引先、生協職員を中心に一般消費者、行政、NPO や NGO の諸団体など、すべてのステークホルダーを対象とさせていただきます。

### ■対象期間

2008 年度（2008 年 3 月 21 日から 2009 年 3 月 20 日）。

継続的な活動については、期間外の情報も掲載しています。

### ■対象組織

みやぎ生活協同組合の取り組みを基本としていますが、一部関連子会社等についても取り上げています。

### ■対象報告分野

みやぎ生活協同組合の社会的活動・メンバー活動を含む、経済活動および環境活動の 3 分野について報告しています。

## みやぎ生活協同組合 社会・事業・環境活動についての報告書 2009 (CSR レポート 2009)

発行日 2009 年 5 月 22 日（次回発行予定 2010 年 6 月）

発行 みやぎ生活協同組合

〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女 4-2-2

お問い合わせ先

○総務部機関運営課 TEL022-771-1590 FAX022-773-1821

○環境活動に関する詳細は、環境管理室 TEL022-771-2461

HPアドレス みやぎ生活協同組合 <http://www.miyagi.coop/>

本報告書は、ホームページに掲載、ダウンロードできます。

みやぎ生活協同組合  
社会・事業・環境 活動についての報告書

2009

Corporate Social Responsibility Report 2009  
CSR Report 2009

この報告書は、植物性の大豆油インキと再生紙を使用しています。



みやぎ生協は、1998年から全店舗、店舗以外の全事業所と子会社で環境負荷低減のための環境マネジメントシステムであるISO14001の国際認証を取得し、継続して管理しております。